sun comics

アタゴオル物語

1 ますむら ひろし

(910635)

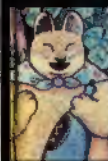
0049
ISBN4-257-91635-4
C8279 ¥380E
朝日ソノラマ
定価380円

サン
コミックス

快熱中して遊ぶ灼熱のサンバと、月夜に吹くハーモニカのすきとおる静けさ。この二つのくりかえしの中で生まれた無数の波の輝きを、ぼくは地球の紙に、拾い集めてみたのです——シリーズ全6巻いよいよ発売!!

sun comics

アタゴオル物語

1　ますむら ひろし

アタゴオル物語 1 ますむらひろし サンコミックス

(910635)

著者近影

0049
ISBN4-257-91635-4
C8279 ¥380E

朝日ソノラマ
定価380円

アタゴオル物語①

昭和56年3月30日　初版発行
昭和57年6月18日　4版発行

著　者　ますむら　ひろし
©Hiroshi Masumura
発行人　真久村　繁
印　刷　フォト印刷株式会社
製　本　大和製本株式会社

発行所　株式会社朝日ソノラマ
東京都中央区銀座4丁目2番6号　第2朝日ビル
郵便番号104
TEL(563)6021　振替　東京2-40311

アタゴオル物語

1　ますむらひろし

■影切り森の銀ハープ……1976年「マンガ少年」11月号掲載 3
■タヌキが空から落ちてきた……1977年「マンガ少年」3月号掲載 21
■ヒテヨシ版宝島……1977年「マンガ少年」4月号掲載 41
■ギルバルス……1977年「マンガ少年」5月号掲載 65
■植物見張り塔……1977年「マンガ少年」6 7月号連載 87
■唐あげ床屋……1977年「マンガ少年」8月号掲載 131
■猫の目岩の奥で……1977年「マンガ少年」9月号掲載 153
■ブドウの森……1977年「マンガ少年」10月号掲載 177
■雪待ち草の酒……1977年「マンガ少年」11月号掲載 199

影切り森の銀ハープ

よっぱらいたちの消えた町は
もう人間たちのものじゃない
俺の名前はチビ丸
夜の世界は
俺たちのもの
今
俺は
ヨネザアドに行くところ

アタゴオル物語①

アタゴオル・透葉森

おやじはその晩オクワ酒屋でかなり飲んだらしいんだ

その夜は月が満月だったんだよ

すると森のやつは動き出していたんだ!!

うん
おやじの跡を
つけるよう
にして森は
動いて
いたんだ

りみつう
よ・どお♪

おい!!
カビくさい
ニオイが
しないか?

ら

影切り森!!

もどろうぜ!!
うん
ふっおくびょう者めが
んっんっ
ヒデヨシだぞっ
ブーン
俺は
オレ一匹で行く
バカ
ヒデヨシもどれっ
よし
ぽこっ
つれもどすんだ
よしっ

ちきしょう ゲンキンな やつだ

とにかく いそいで 森を出ようぜ

しまった月が
あっ
ヒデヨシの影が
ついて来ない!!

影!!

行くぞ
Pon
オウ

そーっと
だぞ

ヒデヨシ
早く来い
おう

すおうっと

ん?
ズズズ

ら
ズズッ

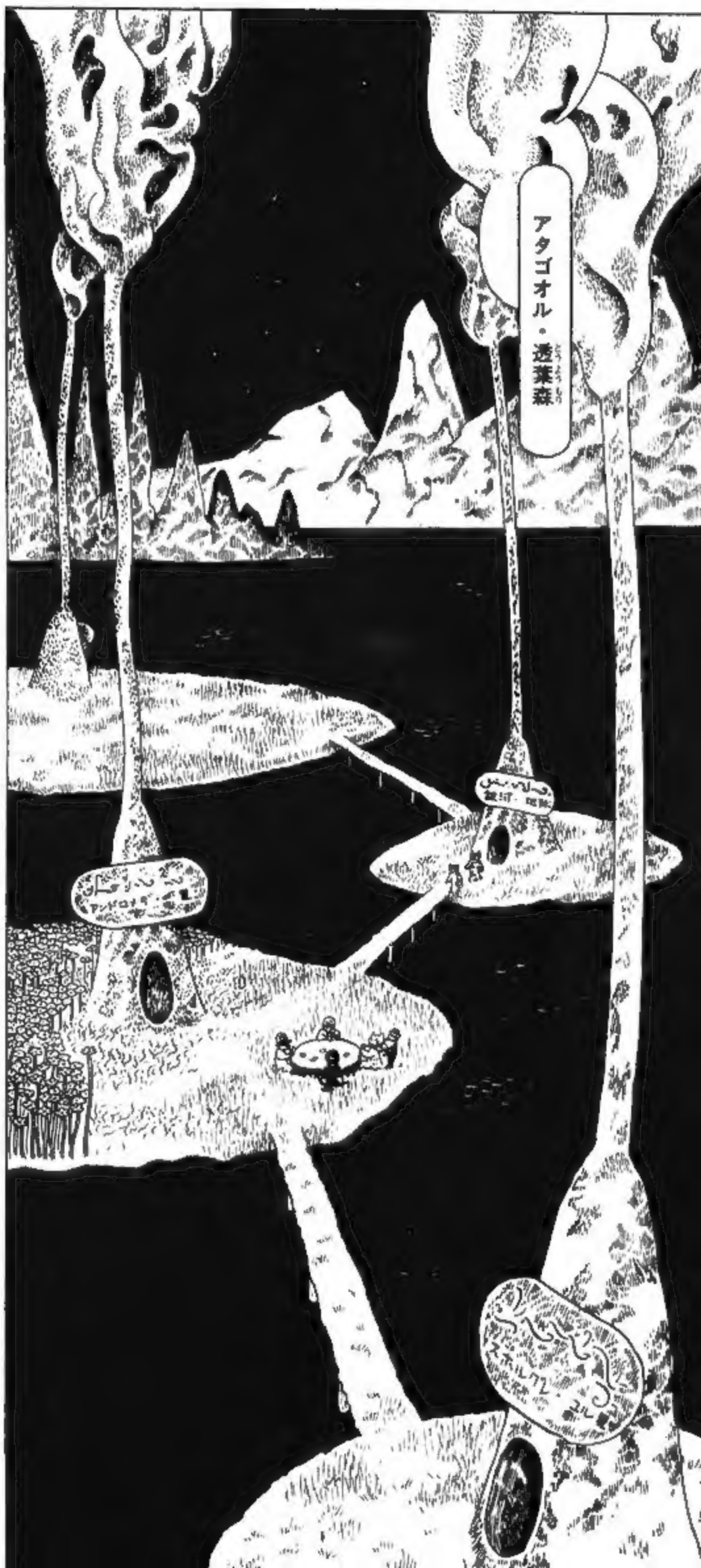
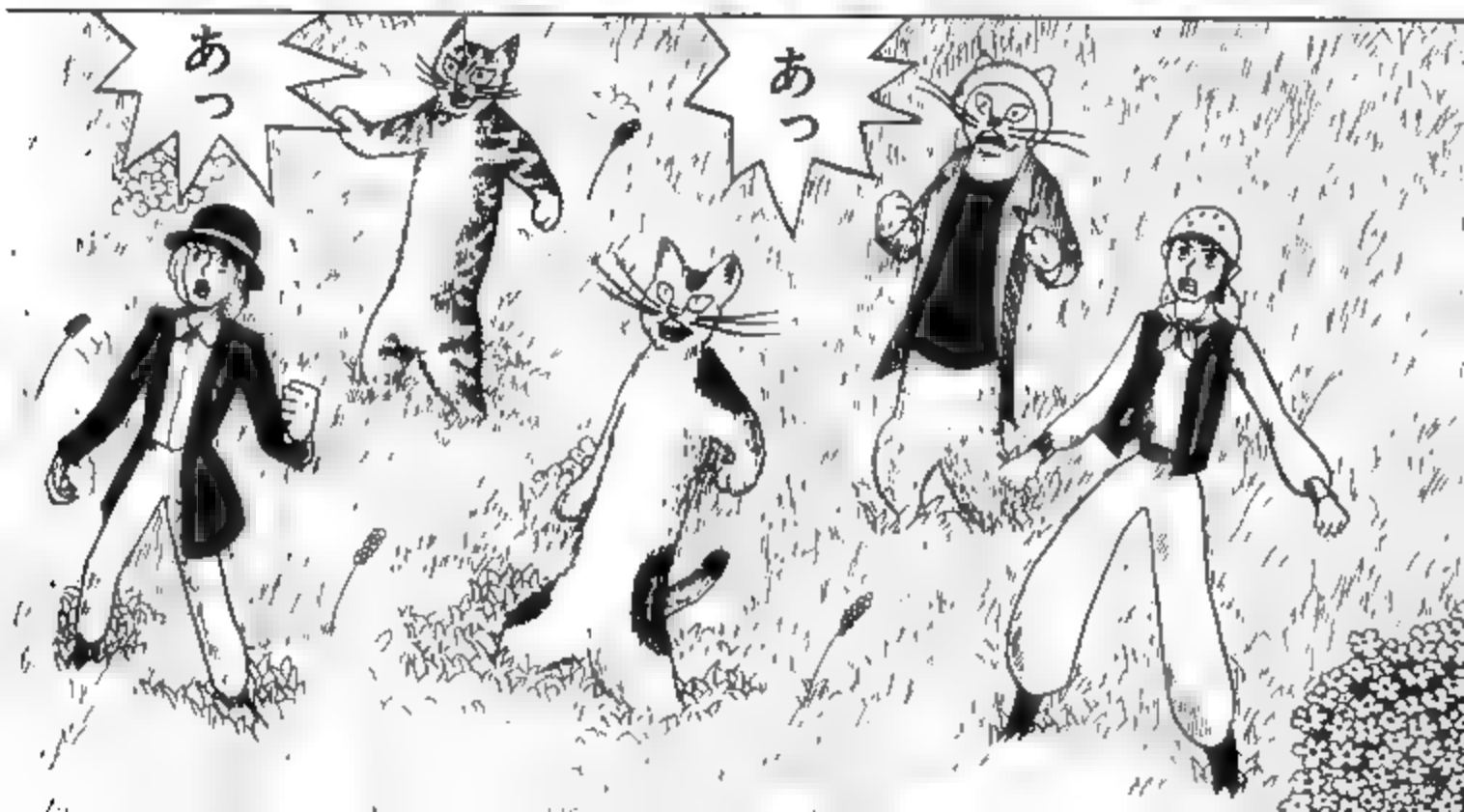
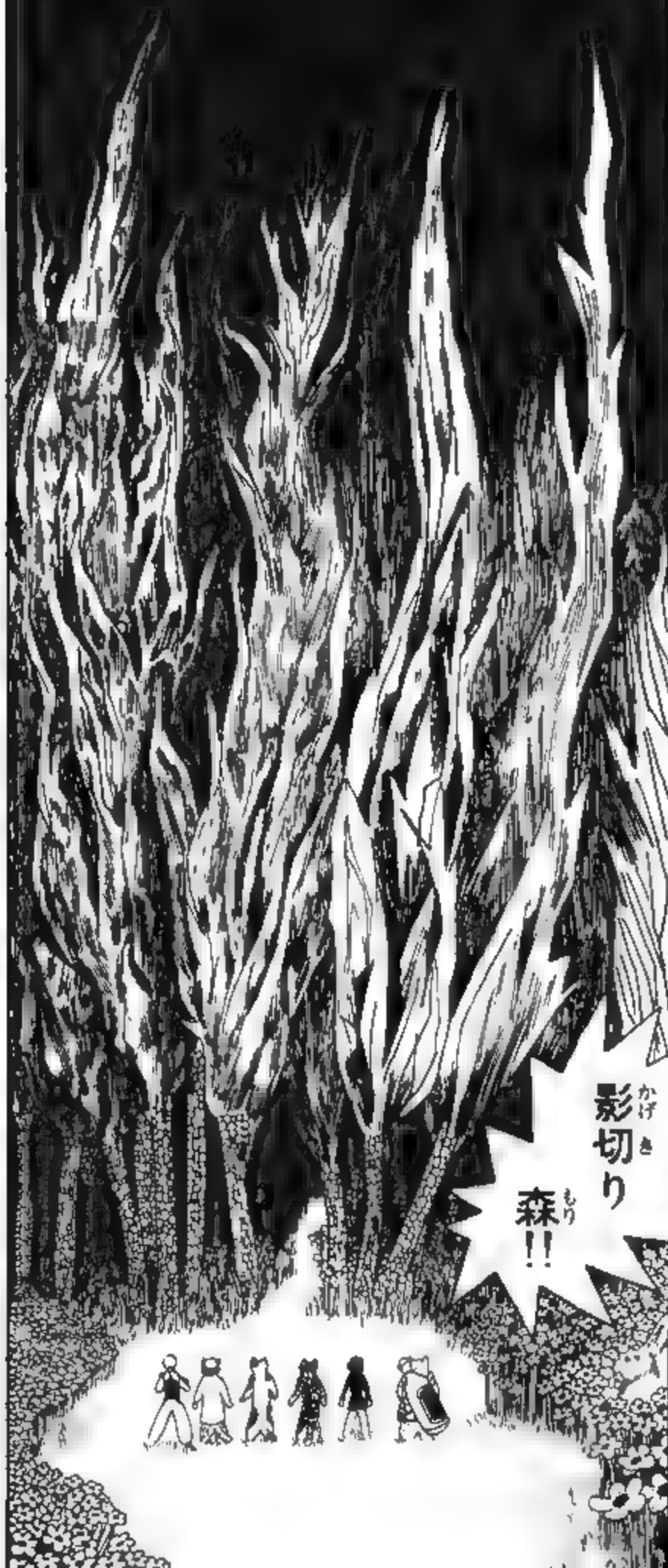
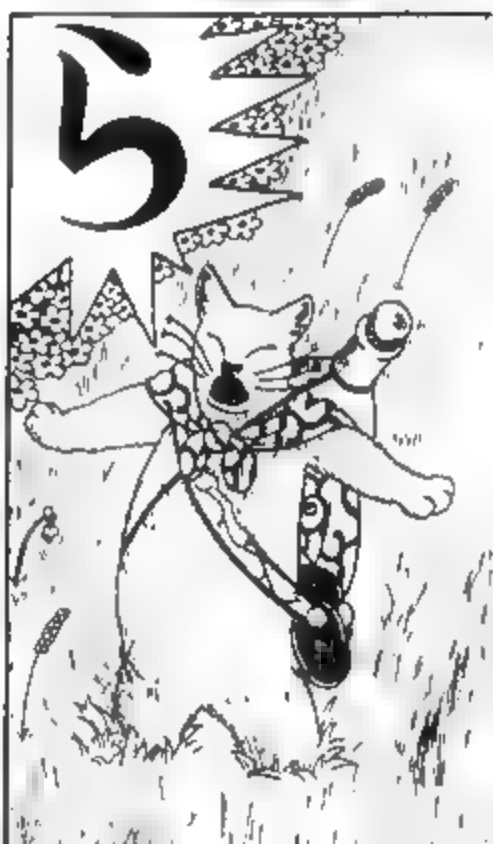
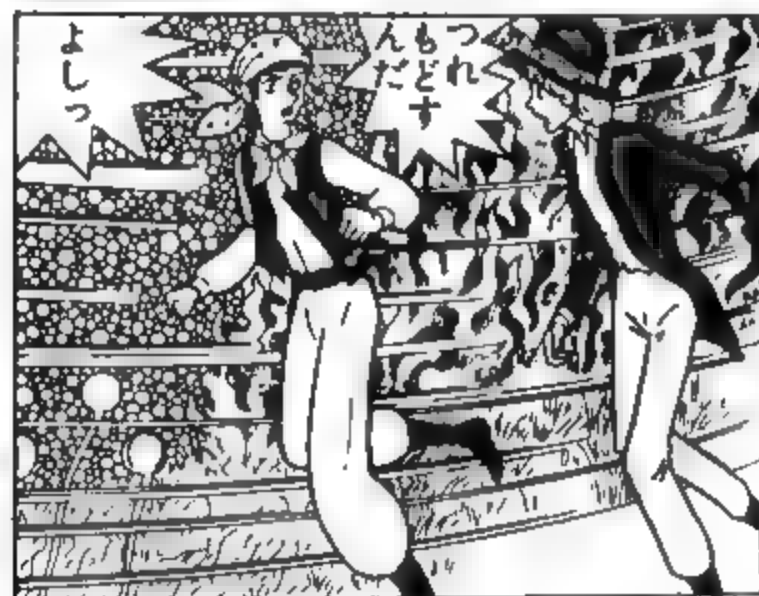
額に水晶が食いこんでる

しっかりしろ
pang

いそいでヒデヨシをオクワ酒屋まではこぶんだ!!

オクワ酒屋が見えてきたぞっ
くそ重てえなあブタみたいなやつだっ
ブタの方が軽いよ

バン
ヒデヨシが影切り森で影を切られた

あのバカが

蛇腹沼
鐵ハープで
終夜曲を
休みなく
くりかえして
吹くんだ!!
ずーっと吹いていると
沼の中からヒデヨシの
大きな青白い影が
7つ出てくる
その7つの影が
水平線に沈む月と
重なる時に
ひとつだけ青白い色から
赤紫に変わる影がある
その影を弓でうつんだ
そいつがヒデヨシの
影に乗り移った影切り森の
支配者影食いだ!!

静かな沼に銀ハープの
音色が流れだ

ハープを吹くみんなの
口唇がしびれ始めた時

沼の北側の方で
ひとつふたつと
白い影が浮き上がった
ザアッ

ハープのメロディに
合わせるように
大きな17つの影は
水面をゆらゆら
動いていった

6番目の影が
月と重なった時
赤紫に変わった
あれだ

ギギッ
ちくしょう
弦が切れた

バシッ

ダッ
やったぞ

タクマの放った矢がつきささると、
影食いはうめき声を上げながら
沼の中ににげて行った

うん よくやった
たくま 一パイ おごるぞ
どうも
よくやった たくま!!

あっ
水晶が
溶けてきたぞ

もうだいじょうぶだ
朝までこうして
おこう
猫さわがせな
猫だっ
よし
もどって
オクワさんとこで
リンゴ酒を飲もう
さんせい

あーあ
もう
夜が
明けるよ

チビ丸と
ブチ丸も
オクワさんの店
に行くんだろう

うん
行くぞ
いや
俺は
家に
かえるよ

今夜ネズミトランプやるんだけど来ないか？
いいね今夜こそヒデヨシのいかさまを見やぶってやるぞ

じゃあ
またな

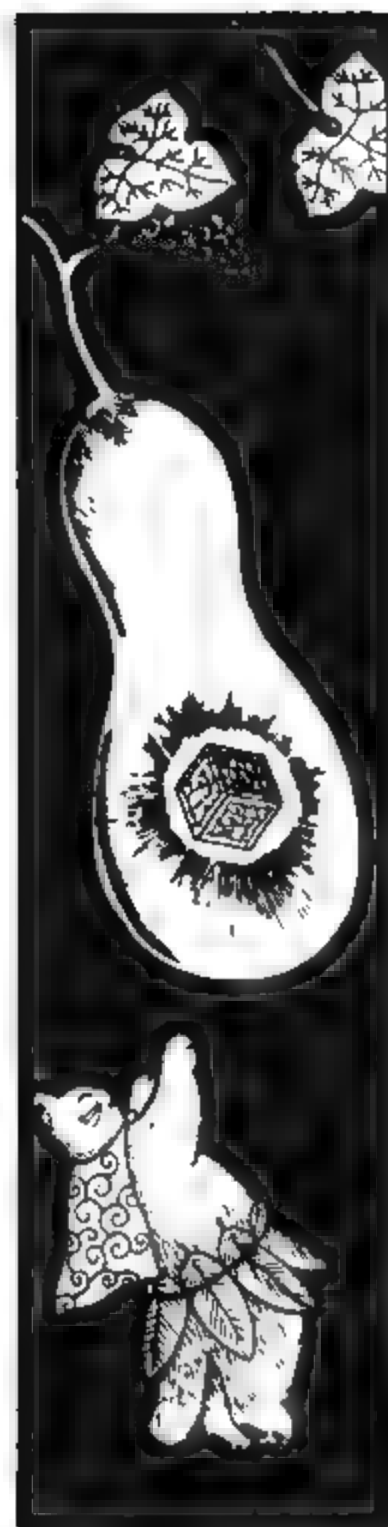
鳥霧山脈から朝日が昇ってきた

ピク
ん!!
ペッタア

あれ？
俺はどうしてこんな所に来たんだろう

フーム
おかしい……

朝の陽ざしを腹に受けながら
帰って行くヒデヨシの影は
影食いにかじられたらしく
少しでこぼこになっていました
いふにい さんぽでっ うー!!♪

おわり

タヌキが空から落ちて来た

1698年 春のインド洋を行くキャプテンキッドの海賊船では
異常な事件が起こっていた
空から大ダヌキが落ちてきてスダコのたる持っていっただとォ!? キイスてめえっ
もすこしまともなウソをつけないのかっ!!
ボカ
ド

キイス
たるどこに
やったんだよ
スダコのたる

スダコは
オレの好物
なんだ返せよ
スダコ

ムササビよ
スダコのたるの
ほかに
銀の剣も
なくなったんだろう

どうして
あんなに
スダコのタルに
こだわるのかなあ?

デビット
おまえも
ニブイなあ

オレたち
何のために
キッドの船に
乗ってるんだい

そりゃあ
奴の財宝を
横どりする
ためさ…あっ
そうか!!
キッドは宝島
の地図を
たるの中に
かくしてたのか

そして気がつくと
大ダヌキの奴
たると剣
ひっかついで
夜空へ昇って
いくでは
ありませんかっ!

だまれっ
この
妄想狂!!

キャプテーン
東方に船が見えますぜっ

商船か軍艦か
どっちだっ

わかり
ません
今までに
見たことの
ない異常な
型ですっ

旗はどこの
国籍だっ?

わかりませんマークは
桃色のリンゴの中に
気持ちの悪い
タヌキの絵です

ようしっ
キイスは
あとまわし

ひさしぶりの獲物だみな殺しにしてやろうじゃねえかっ!!

オ!

進路東に
全速前進

インド洋を行く
桃色リンゴ丸

オッ

船長っ

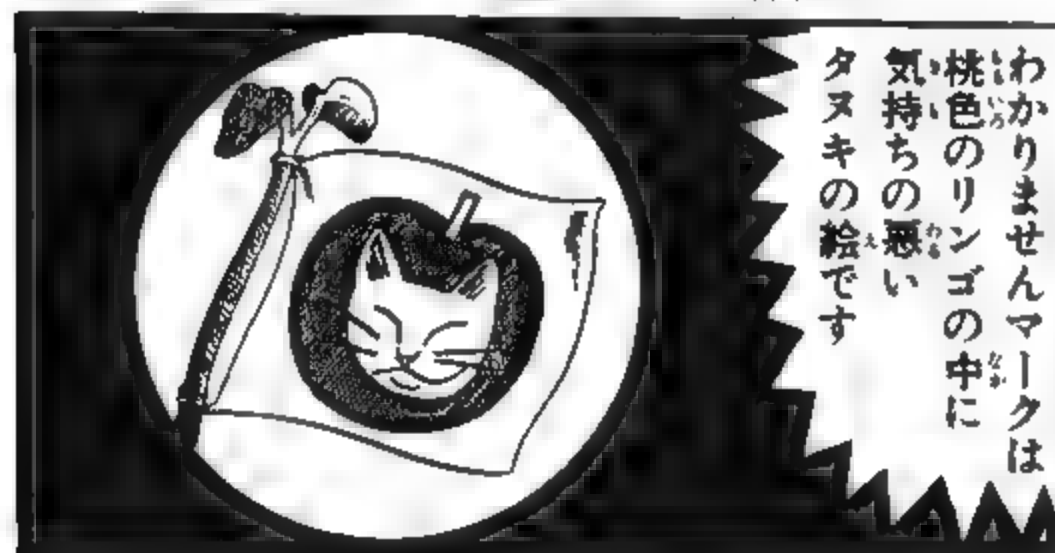
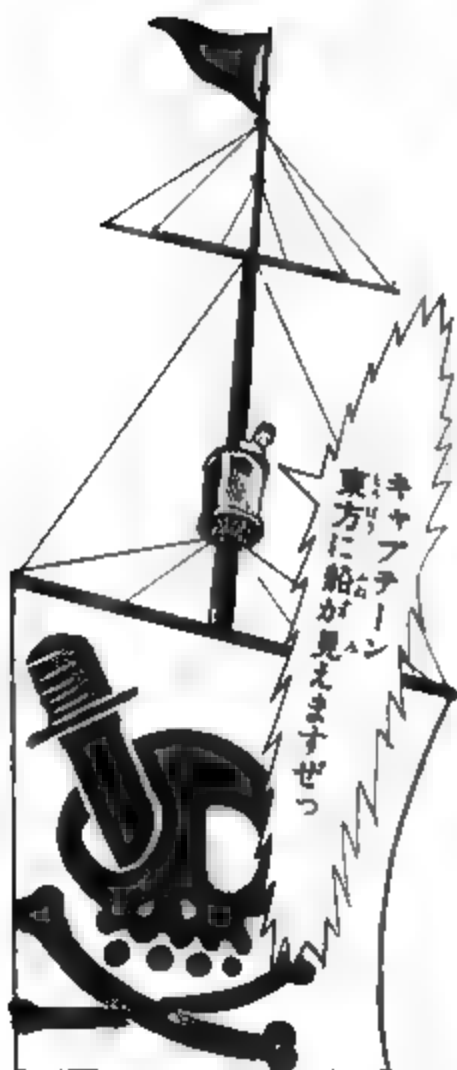
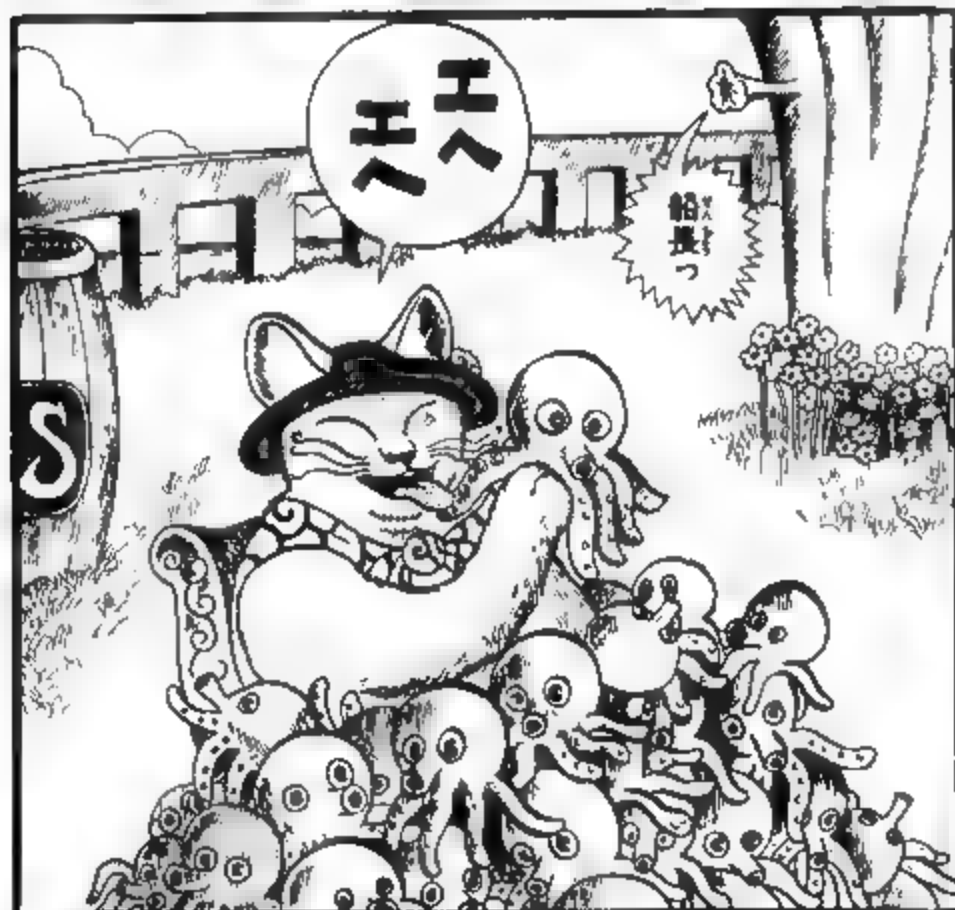
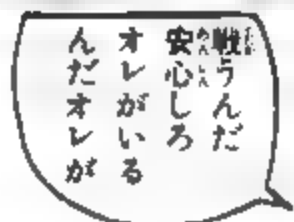
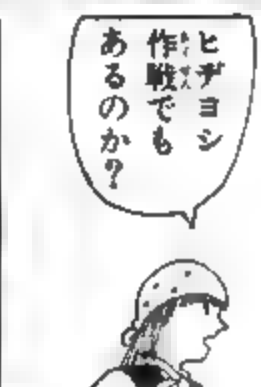
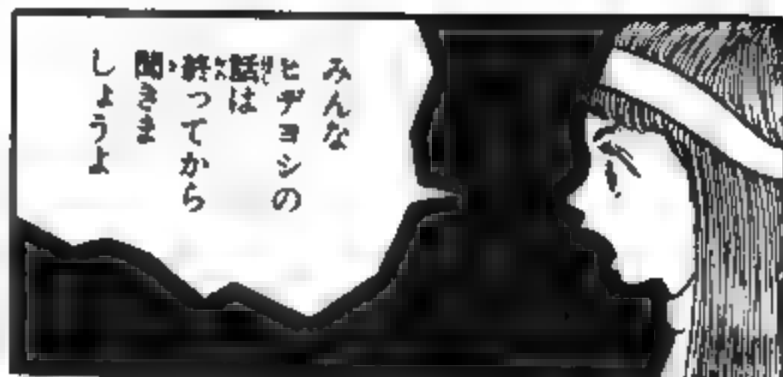
エヘヘ

船長っ

アタゴオル物語①

きのうオレが掠ったんでしかえしに来たのかな?
フッ
桃色リンゴ丸を掠うとは
なあんてバカな奴らだ
そういう奴らはオレがこらしめてやる
にっちゃくちゃにっちゃ
くっちゃ
しっかし!!
ぬすんだスダコはんめえなあ
ザリッザリッ
ん?
なんだこれは?
ピッ
ジャーン
オオッこれは何と
フフッ
パン
フウッフッフッフッフウ
へったくそな地図だなあっ
バシッ
ゴミ

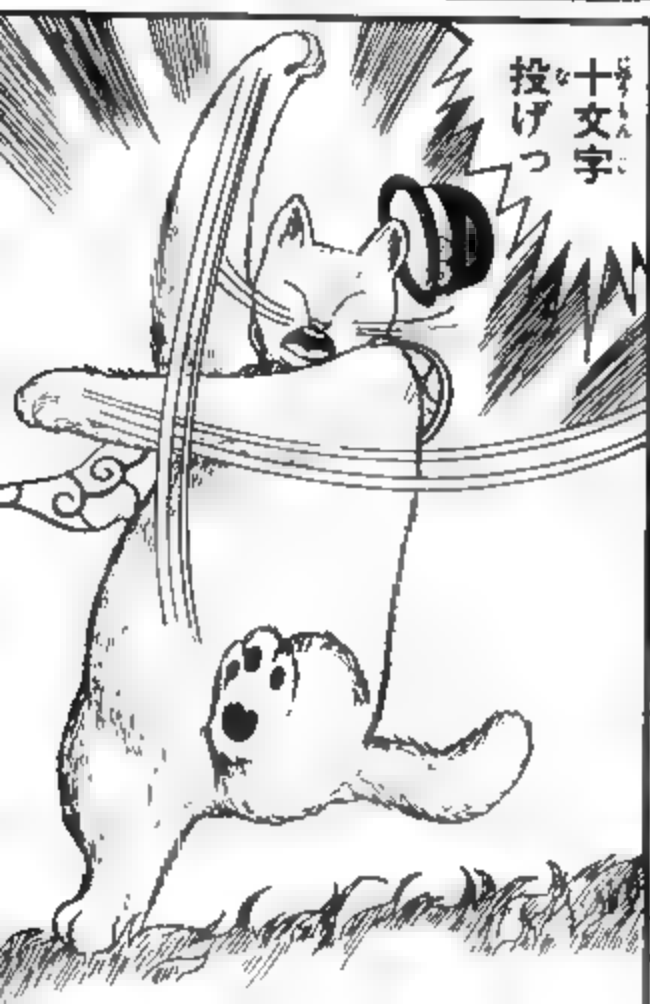
待てこのやろおっ船長はオレだぞっ

こんのォ

みんな
ヒデヨシの話は終ってから聞きましょうよ

ようし
オレひとりで全部倒してくる

おまえね
みんないそがしいんだから
デタラメ言うんじゃないよ

オレのナイフのうでがデタラメかどうか今見せてやる!!

そんなに言うのなら見せてもらおうぜ

あんなに遠くにおいて本当に当たるのかなあ?
ホラに決まってるよ
行くぞ
神わざっ

十文字投げっ

スゴイッ

みだれふぶき

スゴッ

月の輪落とし

恐ろしいうでだ
こんなにスゴイとは!!

とどめは

熱風ジャック投げ
カクッ

本当にスゴイや
一本も当たらないなんてっ

ううっ どうしたんだろう きょうは

水平線に
陽が沈む頃
ついに
桃色リンゴ丸は
冒険号につかまって
しまい　激しい
砲撃戦が
開始された

ううてっ
ドズッ
うーっ 血がさわぐ 血が!!
ドドッ
キャプテン あの船じゃ大ダヌキが酒飲んでますぜっ!!
なにィ?
うっ 気持ちの悪い顔だっ キイスの話は本当だったのか!!
バラド あいつの顔をよく見ておけ あんなのが船に乗ってると
熱病がはやるんだ

バギッ
ドッ
オッ
のってきた
なあっ
そろそろ
とどめを
さしに行って
やろうっと
いよいよ
オレの見せ場だなあ
ヒデヨシ
どこへ行く
気だっ
キャプテン
タヌキが
こっちに
向かって来ます
ヒデヨシの奴
なぐりこむ気だな
チンプラ
心配するな
死なないよ
あいつは
殺しても
死なない
男なんだ
見なよ
あの顔
ドレドレ……
あっ タクマ
たいへんだよ

キッドの船もリンゴ丸も……やられてしまうぞ

テンプラ あいつ……あの笛吹くと思うか

キャーッ
タヌキが
空から
落ちてくるう

ボギッ
ベリッ
あっマストが
折れたあッ

ビダッ

うーーう
いってえっ

マスト折りやがってぶっ殺せ
キッドを出せっこの!!
タヌキが口をきいたぞ

やろうども
手を引け
タヌキ
オレがキッドだっ

おうキッド
オレは桃色リンゴ丸の船長ヒデヨシだ
マストの上で一対一の決闘しようじゃねえか

いいだろうタヌキ
ナイフでやるかい？

猫がしゃべれるわけねえだろう!!
高等なんだオレは

ヒデヨシの首の音は引力となって、なにかを猛スピードで地上へと導いた

おいキッド上見てみな

オオッ

うあ

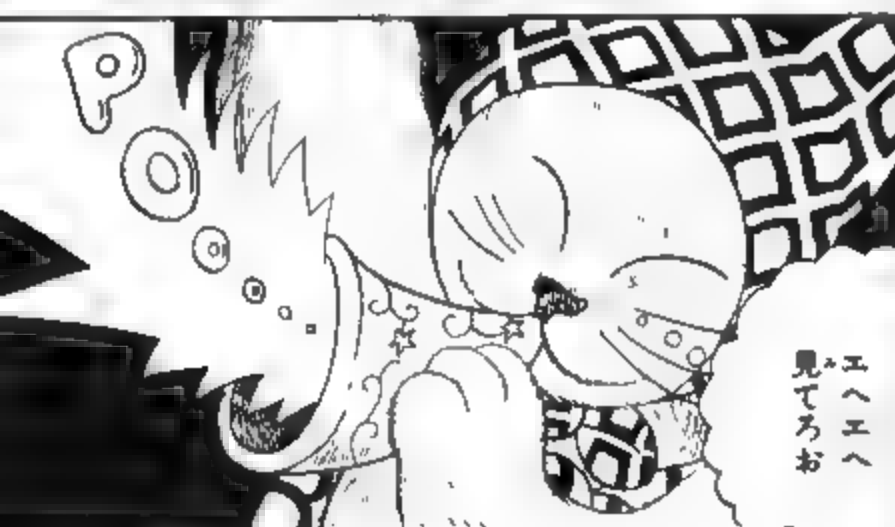
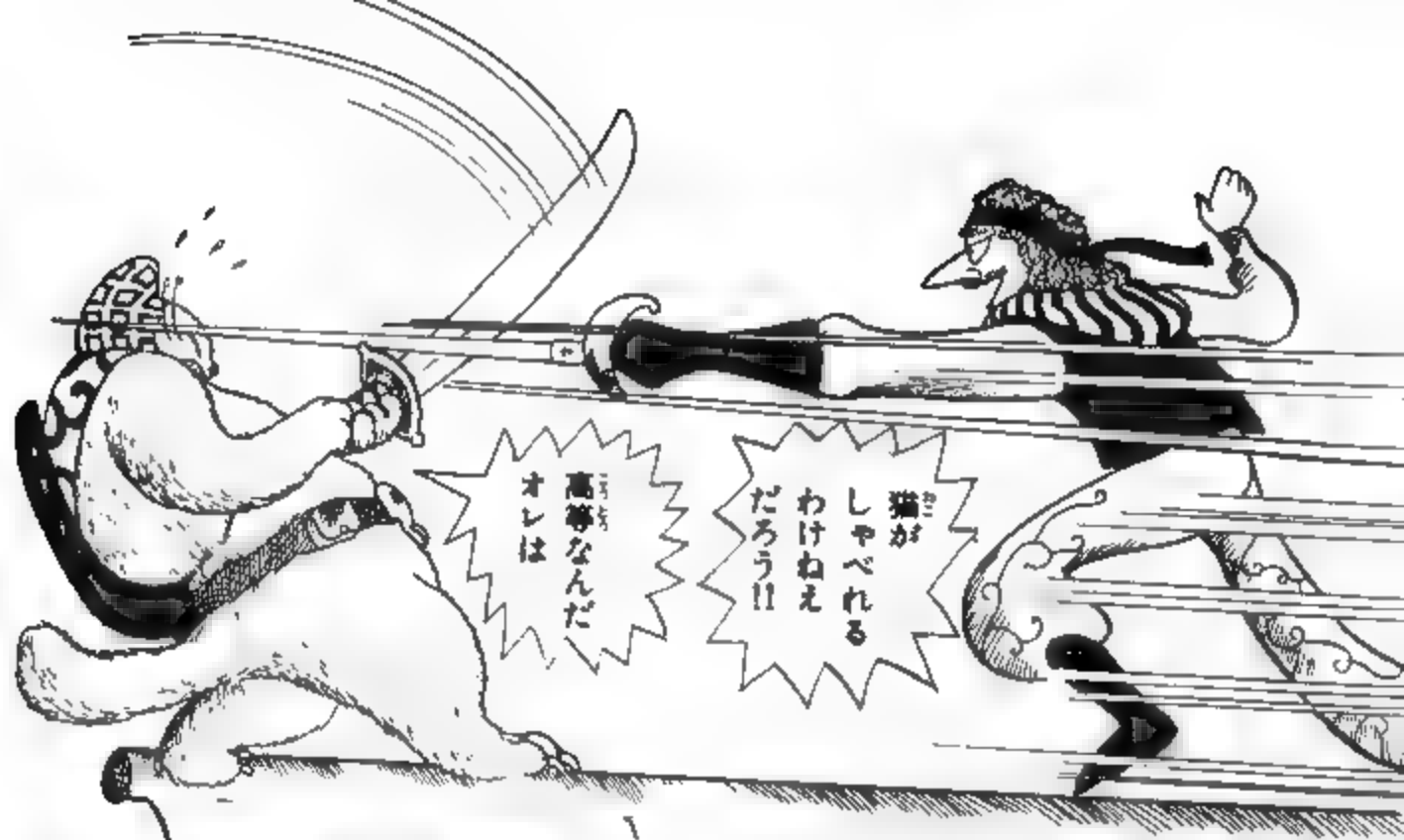
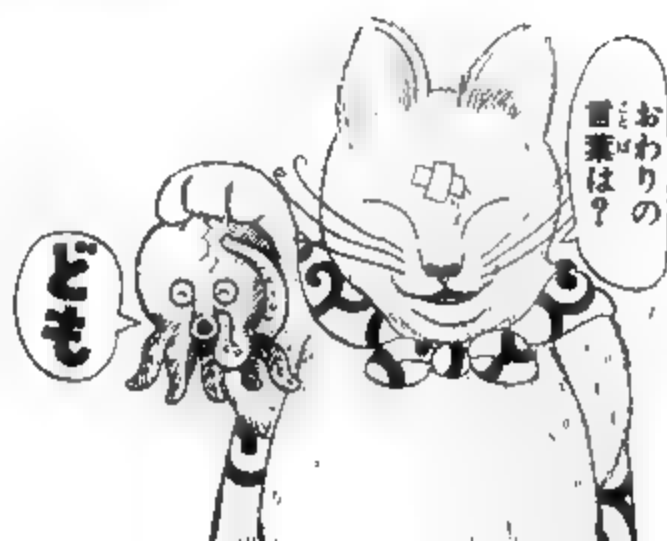
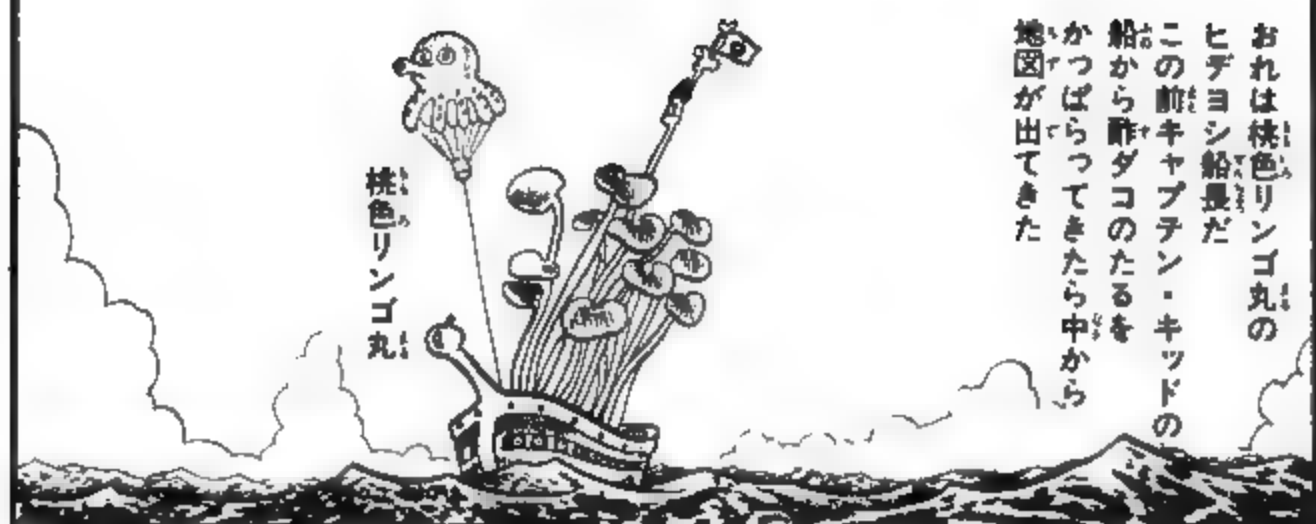
ズゴオ

ズズ…

流星群だっ

フーーッ助かった
あれじゃキッドもヒデヨシも死んじまったなあ
おおい何かがこっちに向かって泳いで来るぜっ
ム？

ザバ

フッフッフッ
オレは流れ星を呼ぶ男なのよ

この事件以後宿命のライバルとなったキャプテン・キッドとヒデヨシは
7つの海を舞台に宝島をめぐって数々の激戦をくりひろげた

ヒデヨシ版宝島

おれは桃色リンゴ丸の
ヒデヨシ船長だ
この前キャプテン・キッドの
船から酢ダコのたるを
かっぱらってきたら中から
地図が出てきた
桃色リンゴ丸
ペエロ
ペエロ
おれは字が読めないので
ゴミ箱に捨てた
テンプラのやつが
あとで 拾って
「これはキッドの宝が埋めて
ある宝島の地図だぜ」と言った
で おれたちは今 宝島に
向かっているところなのさ
あ
ペロオッ
ペロオッ
コレッ
ヒデヨシ!
地図なめる
んじゃないよ
ウエッ
ヘッヘッヘ

あーあ 地図がよだれで ベトベトだ
タラーッ

ニュエッ ヒッヒッ
宝を見つける前から 気が変になったんじゃないのかな
そおっとしておいた方がいいわよ

宝島が見えたぞっ

うーっ 血がさわぐ 血が!!

ウエッヘッヘ

がんばってねーっ
オウおれにまかしておけっ

そろそろ始めるか
えっ?

この辺があやしいな
おまえ何やってるんだ?
ザクッ

宝を見つけるのなんて単純な仕事なんだよ
この島全部掘り起こせばいいんだから　な

フッ

アタゴオル物語①

フッフッ
宝ちゃん
宝ちゃん
ヒデヨシの
相手をしてると
日がくれてしまうよ
早く
宝を掘り出して
しまおう
ラム
正宗は
うまいなあ
フウ
んっ
んっ
んっ
これで酢ダコと
柿のタネがあれば
最高なんだがなあ
ピク
ガサッ
ん?
ガサッ
うわさを
すれば
タコ
コラッ
タコ
こっちに
こい
スゥーー

ラ
まてえ
にげる
キッド船長の命令だ死んでもらうぜ
君そのタコ食ってもいい？
このやろ
ねえタコ食ってもいい？
ド

ひさしぶりに
とどめ行って
みるか
いてて

とどめっ
オオ
ゴッド

決まった
べっ

フッ
オレに
手向かうとは
ばかなやつだ

オレの勘は
ばつぐん
なんだから

ぐあっしゃ

おいブタねこ
気がついたな

あ
キッド

あ
宝だ

今ごろ
おまえの
仲間はいくら
掘っても
出てこない
宝を探し
てるだろうよ

宝は
おまえたちが
くる前に
船長とおれで
ここに
移しておい
たのさ

う
ぐうーーう

腹へって死に
そうだ
何か食わせて
くれ

どうやって
おまえを
殺してやろうかと
考えていたが
おまえが一番苦しむ
方法を思いついたぜ

飢え
死にだ

なんでも
するから
殺さないで
くれえ

おい本当に何でもするんだな
はい しますします
裏切りでもブタのまねでもやるしゴキブリだって食べますから殺さないでくれぇ

よし それならばこのつぼの文字が読めるか
このつぼの文字が読めたら許してやってもいいぜ

船長 このつぼはいったいなんですか

これはおれがインドの漁村を襲った時ぶんどったものでよ

昔 インド洋の海底から漁師が拾い上げたものだそうだ
この文字は呪文でなその呪文をとなえたあと願いを言えばそれがかなうと言われているつぼだ

船長ほどの人が
そんな話を
信じるのですか？
おめえも海に
生きる男なら
わかるだろう
海は謎で
いっぱいなんだ

何十年と
海で
くらして
いるとな

人間は死ぬと
海の底に帰って行く
ような気がしてくるのさ
おふくろの腹の中に
くる前にも
おれは 海の底にいた
ような気がするんだ

海の一番深い暗がりの
むこうに
ずうっと
むこうの方に
あの世があって……
海は
生まれる前の世界と
死んでから行く世界とを
つないでいるから
あの世に住む者たちが
息をするたびに
この深い海のどこかで
波が生まれるような
気がするんだ

おれにはよ 海の底から引き上げられたという このつぼが あの世からやってきたような気がするのさ
うふふ あんた 詩人だねえ

てめえ おれの美しい心を ばかにしやがったな
その文字よ おれには読めないけど テンプラか タクマなら 読めるぜ

なにこの字が読めるだと? そのタクマとか テンプラというのは何だ!!
おれのできの悪い子分でよ 今 宝を掘ってる奴さ

おまえ そんなこと 言って 仲間に 助けて もらう気だな

おれの眼を見ろ この眼が うそついてる眼か!!

おまえ 笑ってないで ちゃんと開けよ

これでも ちゃんと 開いてんだい!!

タクマ
だれかが
先に宝を掘り出したらしいぜ

こぞう
友だちを
つれてきたぜ
う
みじめ
あ
ヒデヨシ

タクマ
テンプラ
こちらが
キャプテン
キッド様
あなたが
あの有名な
キッド船長
ですか

おれはそんなに
有名か
よし　おまえたちが
つぼの文字を読めば
ブタねこを
返してやってもいいぞ

タクマ　テンプラ
助けてくれえ

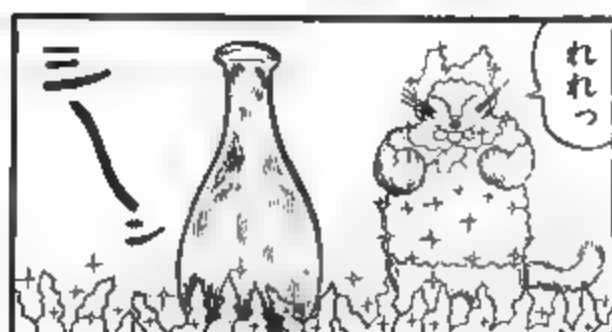
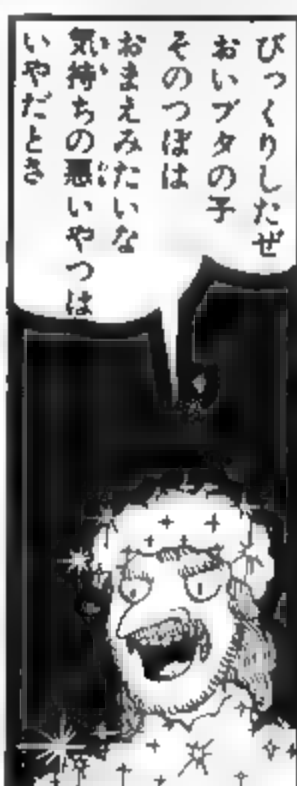
おい
どうする
しょうがない
読もう

ヨネザアド
文字だ
キッド
船長
文字は
フ・ン・ガ・
ニュウ・ニです

フ・ン・ガ
ニュウ・ニ
か……
もしもですぜ
呪文を
となえても
何も起こら
なかったら
どうします
その時は
このつぼも
あのがきどもも
めためたに
してやるさ
この世で一番
金めのものを出せ
フ・ン・ガ
ニュウ・ニ
ユ
ユ

島中に舞い上がった無数のアワが
やがて
くそっ アワばっかり出てくるぞ
ゆっくりと
あ
ダ
ダイヤモンドだ
おれの服が!!
あらあらら

ダイヤダイヤだ!!
ダイヤだ
島中が…
とうとうダイヤモンドの島になっちまった……
船長ほら眼帯までダイヤモンドですぜ

木も草も
岩も
ダイヤの帽子に
ダイヤのズボン
チクチクして
いたいや
ぺっ
ダイヤが
食べられっかよ

これ おまえ 何する気だ
たしかフ・ン・ガ・ニュウ・ニだった
スウ〜
この世で一番 うまいものを 出せ
フ・ン・ガ・ニュウ・ニ
ああ きさま
れれっ
シ〜ン
おい つぼ 何か食わせろ
びっくりしたぜ おいブタの子 そのつぼは おまえみたいな 気持ちの悪いやつは いやだとさ
つぼっ てめえっ
バム

ら
ああ おれのダイヤが
酢ダコに なって しまう
うー 酢ダコの帽子に 酢ダコのズボン
ぬるぬるして 死にそう
うう おれ生まれて きて良かった
シク シク
うれしくて 気が狂いそうよ

おれのダイヤが!!

船長しっかりして下さい
まだ宝が残っているじゃないですか

ううごろごろごろ

おれ　もう
はきそうだよ

島中全部
酢ダコだ

おい
ないか？

おかしい
なあ
あと
一かけら
なんだ
何日かかっ
ても探し
出すんだ
ああ
おれの
ダイヤ
!!

にっちャ
しっちャ

ヒデヨシのために
宝島がスダコ島に
なったじゃないか
おれたちは
宝探しに
行ったんだぞ

ねえキッド船長たちが
もしつぼを元どおりに
したら　また願いが
かなうのかな

うまく
なおしたら
かなうかも
知れないね

フッ
それは
無理な
話だぜ

どうして
だよ？

そんなこ
ともあろう
かと
思ってよ
ちゃあんと
かけらを
一つ持って
きたのさ

ラ
コロン

あー
酢ダコ
ヒデヨシ
あぶないぞ

酢ダコが
一個落ちて
しまった
くそっ
もったい
ないことを
した

いいじゃないか
こんなにあるん
だから

うっ

げぶっ

ギルバルス

アタゴオルか……ここだな

やつめ 今度は にがさねえぜ

アタゴオル地方は 鉛色の厚い雲で おおわれ
太陽も 月も 見えない日が もう4カ月近く 続いていました

やあ
テンプラ
椿ちゃんの
お見舞いに
きたよ

眠り病は……
おれも
小さい時に
かかったけど

一晩中
月の光を
浴びれば
なおるんだ
でも椿の場合
4カ月近く
こんな
天気だろう

だから
体の方が
だんだん弱って
きてね

医者の話だと
あと5日のうちに
月の光を浴びないと
手おくれに
なるんだ

あと
5日の
うちにか

棚の整理しなきゃならないんだ

ランプの油を買ってきてくれないか

いいよ
しかし こんな天気ばかりだと油代もずいぶんかかっちゃうね

銀貨6枚ね
ヘッヘッヘ どうも

いらっしゃい
油をください

ちょうど銀貨6枚です
油が少なくなりましてね
ヘッヘッヘ

銀貨6枚も!! この間4枚に値上げしたばかりなのに

無理して買わなくてもいいんですぜ いやならよすんですな
そうよすんですな

あっ ヒデヨシ
なんだおまえ ここで働いてんの?

フッフッフッ そうよ
お客さん買うのかね買わんのかね
チェッ 買うよ 銀貨6枚だったな

毎度ども また来てね
おいヒデヨシ わしは風呂屋に行ってくるから おまえ 店をたのむぞ
だんなさん おれにまかせば 安心ですよ
エヘエヘ 客がきたぞ
くそ
油を売ってくれ あれっ ヒデヨシじゃねえか
なんだ パンツか
銀貨4枚だったよな
ヘッヘッヘッ 最近油が少なくなりましてな 銀貨8枚になったんですよ
銀貨8枚だと うーっ
別に無理して買わなくてもいいぜ
買うよ しかし高いなあ

毎度どもお
それにしても高いなあ

フッまた2枚もうけた

きょうも帰りにダンゴが食えるぞ

やあテンプラ
ようパンツ

なんだパンツも油買ってきたのか
うん

しかし腹立つな
あのランプ屋

銀貨
8枚だぜ

あれ
また値上げ
したのか

ん?

それにしても
早く この霧
消えないかなあ

そう すりゃ ランプ屋の 客はぐっと 減るしな
いや ランプ屋より 椿ちゃんのために

そうか 椿ちゃんか
しかし あと5日の うちにかあ

ちょっと たずねたい んだが
何です か?

こんな顔の 男を知ら ないかい

あれ その顔は

パンツよ これはランプ屋のおやじじゃないか
うん ランプ屋のおやじだよ

あんた ランプでも買うのかい

いや そのランプ屋から
もらいたいものがあるんだ

今から ランプ屋に会うんだったら 松の湯に行った方がいいよ
あいつ 今ごろになると いつも 風呂に行くからな

その風呂屋に案内してくれないか
いいよ

テンプラたちが風呂屋に着くころには日が暮れていました

命を

もらいにきたぜ

へっ

殺すだと？

おれを

この前のようにはいかないぜ

あの玉に全部引っぱられてしまう

おまえの術じゃおれは倒せねえ

オッ
シュッ
もう
観念しな

ランプ屋は
キツネが
化けてたのか
本物のランプ屋は
こいつに山の中で
殺されていたよ
こいつの名は
エスガルと
いって
おれの
弟を
殺した
妖術使い
なんだ
曇り空が
続いたのは
こいつの妖術
のせいさ

ヒカリノクウ!!

あっ

!
テンプラ
オッ
月が出てきたぞ

さっき話していた眠り病の女の子はもうだいじょうぶだよ
さあいそいで行ってあげなさい

あなたの名前は……

ギルバルス

ギルバルス……

遠ざかる
笛の音は
月の光のように
静かに
響いて行きました
おわり

植物見張り塔
ふ

アタゴオルの森の中には
一〇〇年前まで
この国を支配していた
紅どくろ王朝のなごりの
見張り塔が建っている

森中の植物を見張る
ようにして建って
いるところから
「植物見張り塔」とよばれ

ようヒデヨシそんな所で何さがしてんだ
カタツムリとってんのよ
そんなにとってどうすんだよ
さかなつりのエサにでもするのか
オレが食うんだよ
生のまま食うのか
こうやって
よっくかんでな
にっちゃにっちゃ
にっちゃ

うんめえ
ホッペがおっこちそうよ
ごくっ
うまいぞおテンプラも食ってみなよ
いらないよ
しかしここは昔から
カタツムリの多い所だよな
いーや最近はだんだん少なくなって見つけるのにも苦労するのよ
おまえが食ってしまうからだろう
ちがうおれのほかにだれかがこそっととっているんだ
全部オレのものなのに

あっ あそこに 一匹いるぞ
オッ カタ様!!
フフッ つかまえて 食べてあげ るからね
スウーー
ラ
フワ
ああっ

カタツムリが飛んで行くぞっ

おい
ヒデヨシ
おまえ
カタツムリを
かっぱらう奴が
いるって
言ってただろう
うん

あのカタツムリの
跡を追えば
その犯人を
見つけ出せる
かも知れないぜ
テンプラ
行こうぜ

オレのカタツムリ
をかっぱらう
とは太い奴だ
とっつかまえて
やる

あっ穴に
入って行くぞ

ん
ヒデヨシ
どこまで
行くんだよ
くそっ
カタツムリが
見えなくなったぞ
食い物を追い
かけ始めると
あいつは
しつこいからなあ
あれ？
ここは

植物見張り塔の中だ

この塔から出られたものはいないんだよな……

ふっ
オレには野性の方向感覚があるんだ

ぬけ出してみせるぜ

いまきた道を引き返そう
オウッ

ふたりは何時間も
降り続けた

チンプラ 出口はまだ?
ああ……

おかしいな
もう ずいぶん 降りてるのに……

もうかなりの時間がたってるぜ

あれっ

さっきより

高くなっている

もう夜になってるぞ
降りれば降りるほど 上に昇ってしまってるなんて

この塔はいったいどうなってるんだ

うーっ腹へったなあ

テンプラ おれがいるんだ安心しなよ
おまえがいるからよけい心配だよ

ん？変なニオイがするぞ ヒデヨシ感じないか？

おれチクノウショウだから……
プ
べつに

こっちの方からにおってくるぞ

あっカタツムリのカラが
くっそう みんな食われてしまっている

テンプラよ 変なニオイってこれじゃないのか
くんくん
いやちがうよ こっちの方からにおってきたんだ

ああ

なんだ
これは

ニオイの
原因は
こいつだぜ

私はここで一〇〇年間その卵を守ってきた
魔女さ

魔女だと
そうか おまえのせいだな 入った者が出られなくなるのは

そうさ この塔に入ったものは死んでもらうのさ

魔女なんてこわくないぜ
おれの名刀「やっつけ丸」でぶった斬ってやる
サッ

フッ
フッ

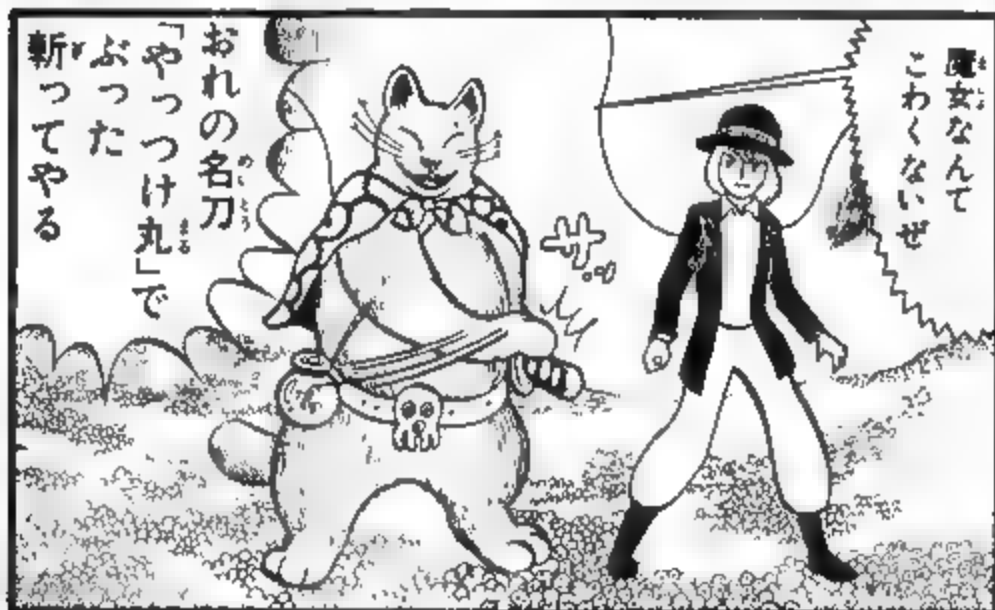
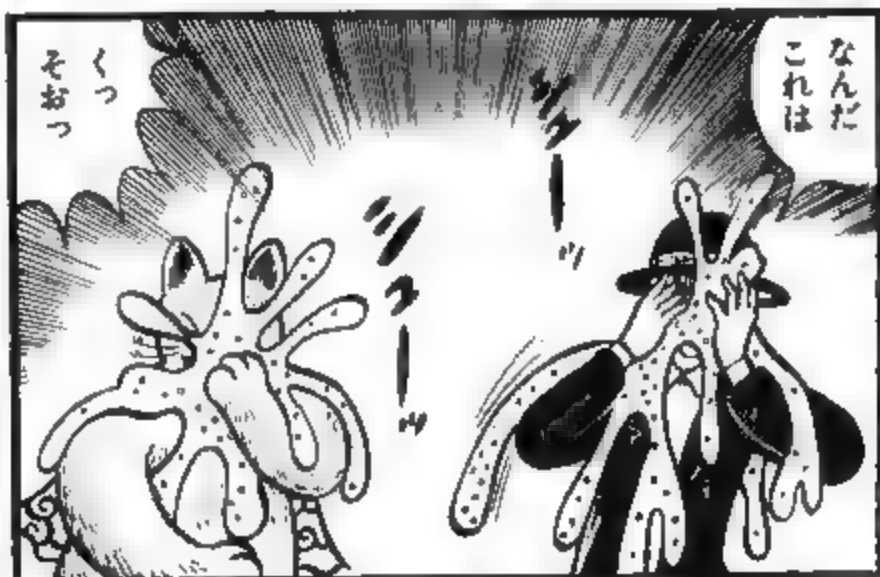
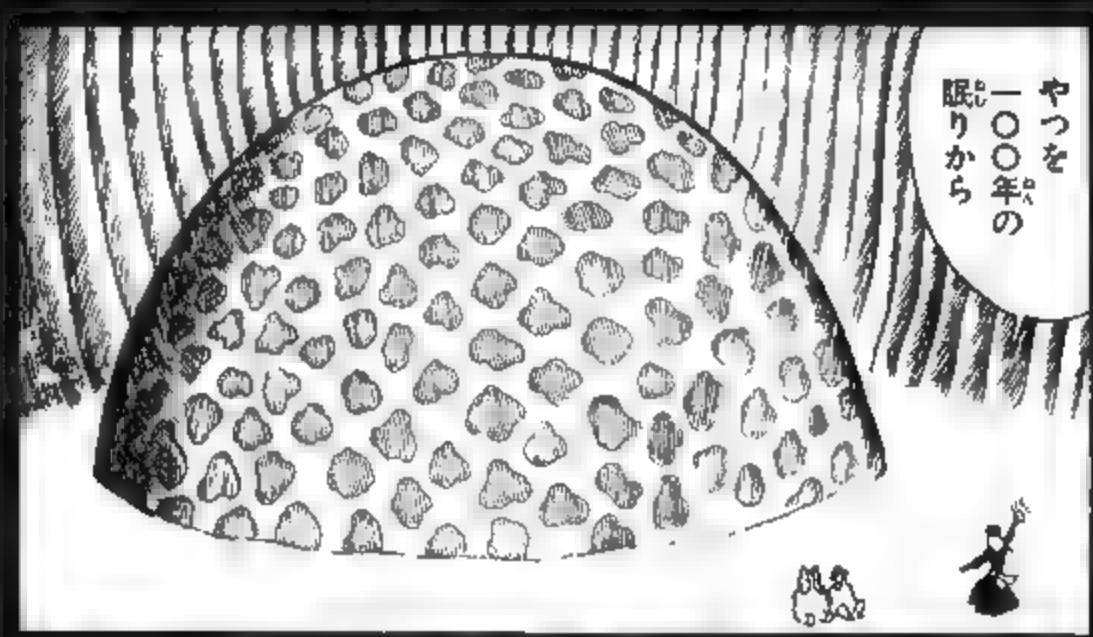
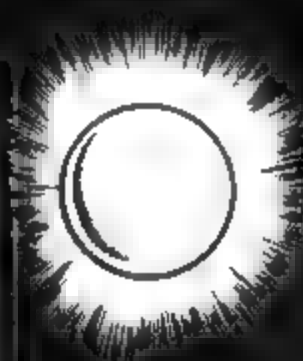
うっ
ラ

なんだ これは
ジューーッ
ジューーッ
くっ そおっ

ちきしょう ベトベトだ
こら魔女 おれのカタツムリを 食ったのは おまえだろう

ほほほっ
カタツムリの身は全部 この卵の中に 溶けてしまってるよ
おい あの卵の中には 何がはいっているんだ

今あわせて やるよ

さあ……
月光水晶球よ

やつを
一〇〇年の
眠りから

さまして
おくれ
ピカッ

ピシッ
あっ
キャッ
うあ

さあ
お食べ!!
うう

うあ
こら
やめろ
グヅ
ッ

キャーーーーッ あああ

おや
外には
出迎えまで
きているよ

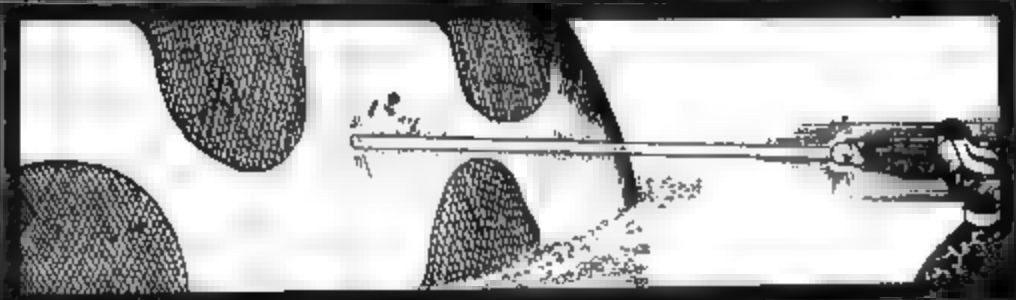
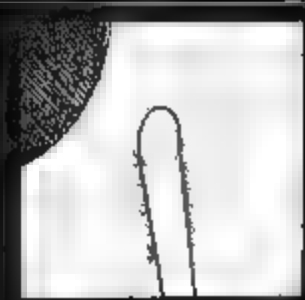
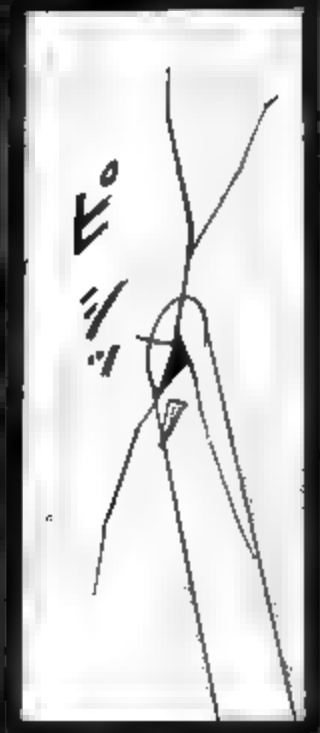
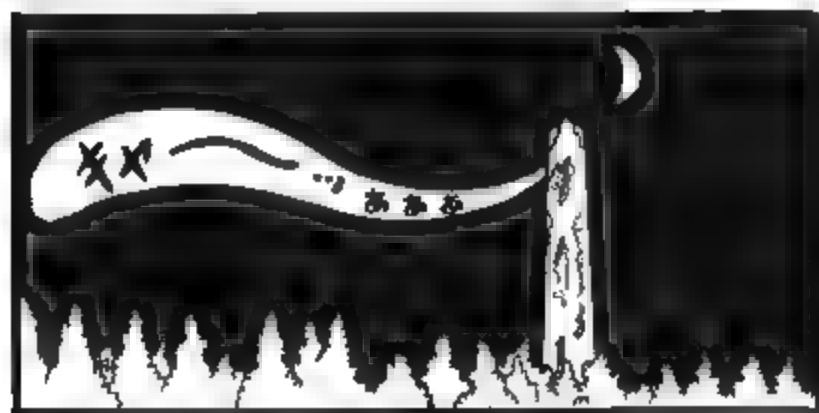
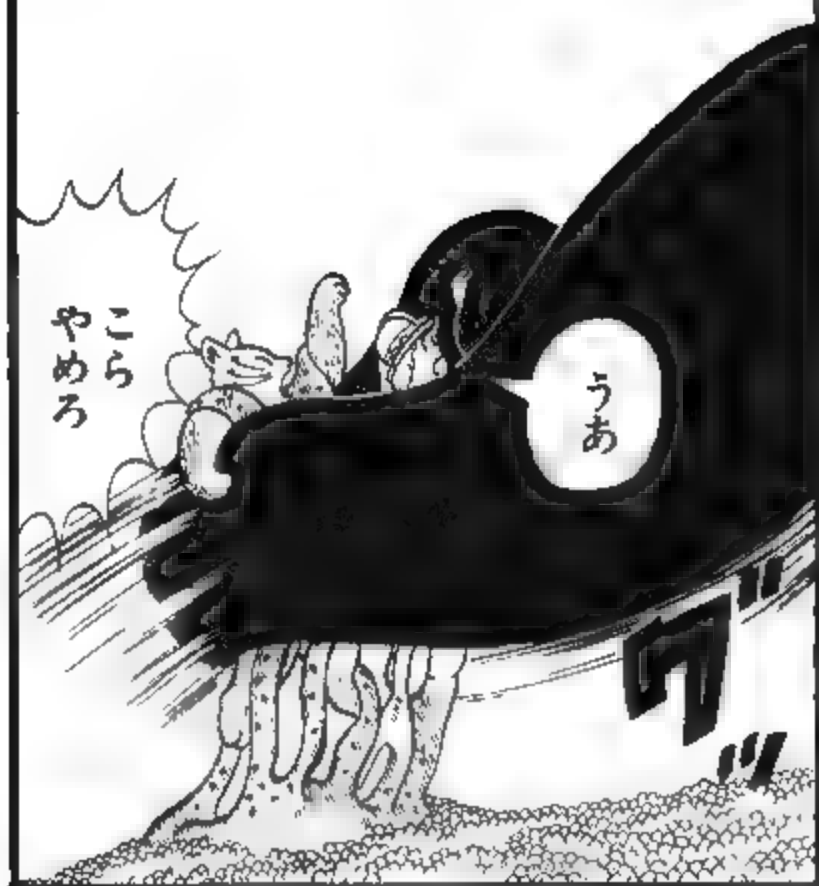
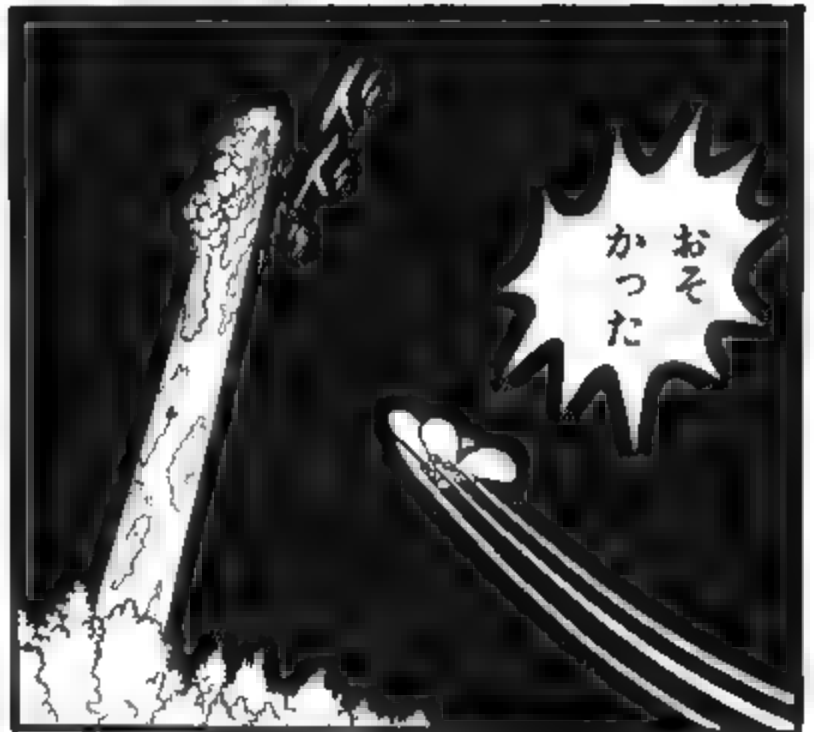
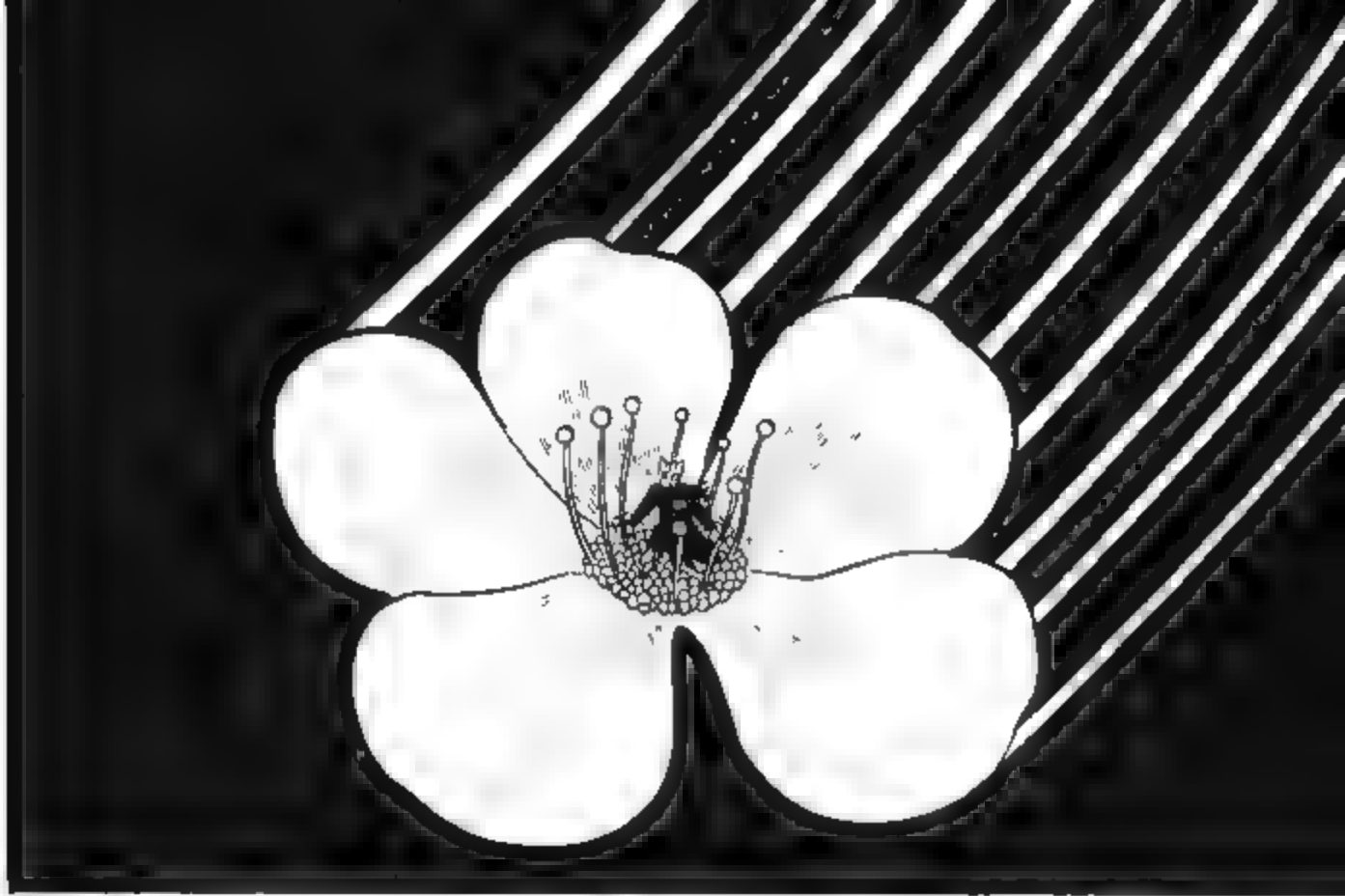
ようし
それじゃ
行こうか

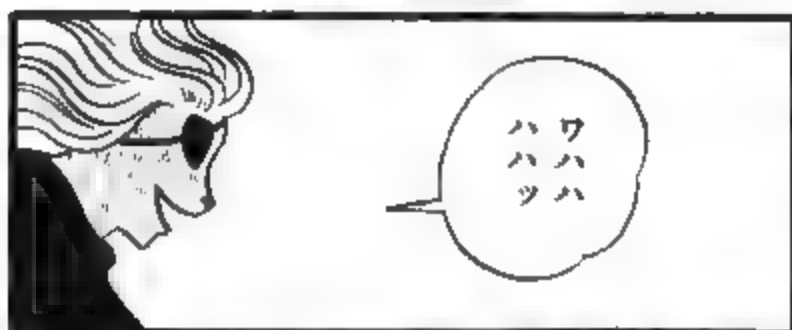
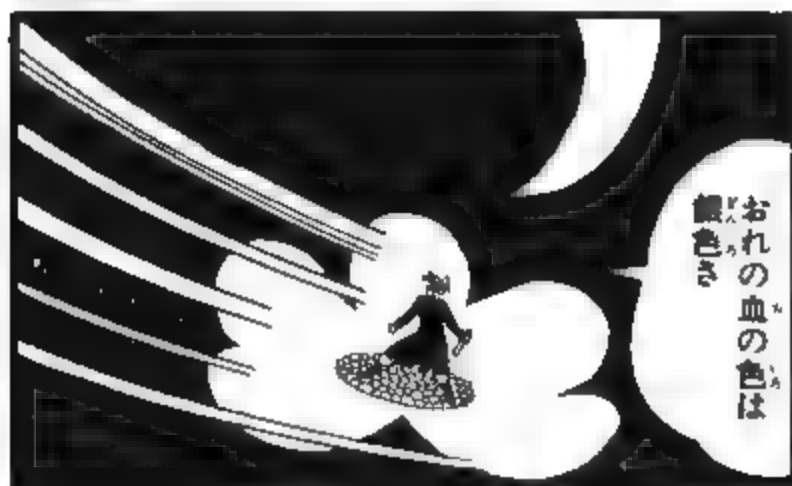
くっ しまった!!

おそかった

ドドドド…

天龍!!

「闇の魔女
一〇〇年後の
三日月の夜
天龍とともに
よみがえる」

おまえだな
鳥霧山の
ギルバルス
とかいう奴は

どうやら
予言どおり
だったな

いずれ
かたづけ
なければと
思っていたが
わざわざ
殺されにくる
とはな

ワハハ
ハハッ

おれの血の色は
銀色さ

月の光が
あるかぎり
おれの体は
不死身
なんだ
今夜は
三日月
死ぬのは魔女
きさまの方
だぜ

いくぜ
フッ
くっ
キィン

ネズミトランプもう始まってるかなあ
こんばんはおくれましてどうも……
やあパンツ
こんばんは
あれ？テンプラもヒデヨシもまだきてないのか

オクワさん
リンゴ酒一ぱいね
はいよ

チンプラの奴
それにしても
おそいな

あいつは時間を守る
奴なんだがなあ

きっと
ヒデヨシのせい
でおくれてるんだわ

おかしいな
ネズミ
トランプを
やる時に
いつも一番早く
くるのは
ヒデヨシ
なんだが……

全部いかさま
して勝っている

そういえば
ヒデヨシは
一度も
負けたことが
ないわね
ああ……
あいつは
強いよ

それにしても

やけに静かだな
ここにくる時だれにも会わなかったぜ

今夜は森に住む人たちはみんなどくろの森に行ってるからでしょう

どくろの森……

あっそうか今夜は紅どくろ王朝が倒されてから一〇〇年目だから

王の
城跡で
一晩中
宴会が
開かれるんだっけ

うん
墓場から
王の棺桶が
盗まれた話だろ

いったいだれが
あんなことを
したんだろうな

ところでよ
紅どくろ王の
墓場の話
聞いた？

パンツ
はい
おまちどうさんよ

さあ
四人そろったし…
ネズミトランプ
そろそろ
始めようか
よし
うん

やっているうち
ナンプラたちも
くるだろうし

ピクッ
むっ

ああっ
変な音がするゾ
何かが近づいてくるぜ

何だろう？

たぶんヒデヨシたちだよ

わっ
ガシャン

くっ
ミシッ

パシュッ

ああ!!
ギルバルスだ

えっ?

ギルバルスって
こんなに
小さいのか?

いや
前に会った時は
小さくなかったぞ

ボッ

シュー
あっ

あ
お

消えたっ
外に
行ってみよう

!
あ

龍だ!!

天龍

今だ

シュルルッ
うあ

しまった

ホホホ

さあ
鳥翔山の
噴火口を下りに
行こうかね

おまえを噴火口に
たたきこんでから
この天龍とともに
にえたぎった溶岩の
海にもぐって行く
のさ

あの山の
噴火口を
下るだとっ!?

魔女
きさま
溶岩の海の中で
何をするつもり
だ!!

死んで行く
お前には
関係のない
ことだが……
一つだけ
教えてやろう

私が天龍とともに
地上にもどった時
その夜 月蝕が
起きる
その時
紅どくろ王朝は
復活するのだ

紅どくろ王は 一〇〇年前に 死んだはずだぜ
王は不死身さ
月蝕の夜 王はこの森に 帰ってくるのだ
天籟の腹の中
う―― 腹へったなあ
ちきしょう なんとか 出られない かな
こらあ魔女 何か食わせろお
バン
くそお 魔女の奴め こんど会ったら ぶちのめして やる!!
おまえ 腕はさえないけど 言葉は 迫力あるなあ

チンプラ
おれにはナイフ
投げがあるんだぜ
みだれ
ふぶきか

そうそれに
月の輪おとし
だってある

いろいろ
名前がついてたって
あたらなきゃ
だめなのよ

あ

ギルバルス!!
おっ
チンプラ
じゃないか

どうして
こんな所に

見張り塔に
迷いこんで
魔女に
つかまったんです

フッフッ
フッフッ

チンプラは
だませても
おれの目は
ごまかせ
ないぜ

おい!!
うまく
バケたな

おう 魔女
さっきは
よおっくも
やったな
チンプラ
なんだ
こいつは
……
目が
見えない
のかい

なに!!
おまえ
この人は
魔女じゃ
ないよ

フッフッフッ
そうかな
ようしっ
たしかめてやる

どうするんだ?

まあ
見て
なって

ギュッ

このオッパイ男だな!?
いて
ギュウ
どうも
それより早くここを抜け出さないとこの繭は鳥猟山の噴火口を下ってしまうぞ
噴火口を下る!?
噴火口ってなんだ?
パン
あとで教えてやるから
でもここから抜け出せるんですか?
だいじょうぶさ
まずおまえからだ
ん
いくぞ

ヒカリノ
コナヨ
ツキヌケロ
クウ!!
おれの術がかからない
どうしたんですか
カタツムリ?
何か考えるんだ……なんでもいいから
そう言われても………
おれの術はカタツムリぐらいの脳ミソのやつにはかからないんだ!!

そうだ
ヒデヨシ
カタツムリ
のことを
考えるんだ

いくぞ
フフ

クウ

ん
キャ
キャアアア

アタゴオル物語①

あれ
ここは
どこだ
？

天龍が
鳥飼山の方に
飛んで行くぞ
どうやら
ここは
蛇腹沼だな
おい
ここに
登ろうぜ
ザバッ
あ
魔女め
今度こそ
はっきりと
かたをつけて
やるぜ

月蝕の夜か…

植物見張り塔に秘められた、紅どくろ王朝の謎が、姿を見せはじめた。月蝕の夜までには、まだまだ長い平和な時がある。対決にそなえよ、ヨネザアド。魔女よ、再び会いまみえん。

唐(から)あげ床屋(どこや)

アタゴオルの
山の中には
一年中雨の降っている
「雨降り森」があります

ザ
このたび 床屋の本場 青猫島・雨床通りで 随一のうでを持つ 私 鷹あげ丸が
雨降り森の中に 新店を 開きました

店員一同 ハサミを鳴らして お待ちしております ぜひおこしください
鷹あげ床屋 店主 鷹あげ丸

なお 特別サービス として 特製スープを ごちそう いたします

ウエヘ エヘ
どんな スープ かな
スープ付とは 変わった 床屋だね

ザー

鷹あげ床屋……ここだな

こんにちわあ

♪ふ♪
るんるん♪

おかしな
店だ
なあ

きょうは
これに
するか

あの変な装置
らあ
カニだ
フッ うまそお
このカニ食ってもいい?
お客さん食べてはこまります

それは大切な商売道具です

商売道具？

いいですか ハサミやバリカンを使うようではまだまだ床屋とはいえません

生きたカニを使ってこそ床屋というもんです

でもどうやってカニを働かせるのですか？

バイオリンのメロディで
カニの心をあやつるのです

お客様ご注文の髪型は？

涼しい
感じに
してくれ

しょうち
しました

全体的に
少しずつ
切って下さい

ヒゲ丸
スープは
まだですか

ただいま
お持ち
いたします

あれは
スープを
作る装置
だったのか

へっへっへ
スープだ
スープ

すおっと

どうぞっ
どもっ

それは当店自慢のサービス

夢のスープです

夢のスープ？

そしてあなたが見たいと思う夢が見られるのです

そのスープを飲むとスーーッと眠ってしまいます

私のバイオリンの音があなたの夢の中をかすかに流れ
やがて眼ざめると
あなたの髪は仕上がっているという寸法です
ハーッ
君このスープ熱いんじゃないの?
だいじょうぶです
猫舌用に作られてますから
それでは
いただきます
ズゥズズズ
ゴクッ

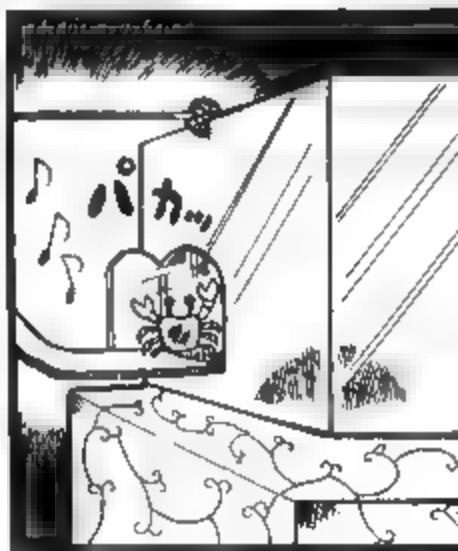
うめ……え
これが夢の味か……
………
ヒデ丸カニの道をつけなさい
はい
スースー
ぐーぐー
どうやら眠ったようだ
私はバイオリンをひいていると時々自分の音に酔ってしまい
カニをあやつっていることをわすれてしまうことがある
よし始めようか
親方
気をつけて下さいよ
わかってるよ

まず少年の方からだ

……気をつけなくては……

行くぞカニっ
サッ

チョキ
チョキッ

パカッ

雨降り森に
バイオリンの音が
流れます
ザー

ヒデヨシの
夢は
どんな夢
テンプラの
夢は
どんな夢

あああ……
体が
果てし
なく
大きく
なって
行く

はぐ はぐ

はぐ はぐ……
キャーッ うまい!?

よし こっちは でき上がり

ザ
親方　うまく行きましたね
どうだ　安心したか
さてと・おつぎは「涼しい感じ」か……
軽く刈って　でき上がりたな
いいメロディだなあ……
……ああ
チョキ
チョキ
だんだんのっ
のっ
のってきたっ
チョキ
チョキ
チョキ
チョキ

あっ親方っ
チョキ♪チョキ♪チョキ♪チョキ♪チョキ
親方っ
ガッ
うっ
ハッ……しまったっ……
……やっちまった……
フーッ……夢か……
……しかしすごい夢だったなあ…
こまったなあ…

どうかしたんですか?
いや……その
これ
あああ
ヒデヨシ
マズイですね……
これはマズイですよ
とにかく起こさなくては
タコッ
ん

あれ? タコが消えた
何寝ぼけてんだよ…… なあ ヒデヨシ おどろくなよ

……おうすっ チンプラ 俺今 タコ食ってんのよ

申しわけありません 実は……あなたの顔
顔? そうだ

ねえ 鏡見せてっ

う

うう

かっこいいっ!!

ザザーッ
かっこいい
!?
気に入ってくれたんですか?
うん いいうでしてるぜ あんた
はい おつりです
さあ ヒデヨシ 銀ハーブ吹きながら帰ろうか
いいね
お客様
それは何ですか?
これは銀色のハーモニカ 銀ハーブです

ペタペタ
それ何をぬっているんですか?
ちょっと借してくれませんか
どうぞ
夢のスープを日光で消毒した雨水で薄めたものです
オレのにもぬってくれ
いいですよ
ザ
それじゃさようなら
またのおこしを
これ吹くとどうなるのかな?
吹いているうちにわかりますよ

おいチンプラ
別になにも
変わらないぜ
このハープ
うん
そうだ
な

!

ヒデヨシ
背中から

虹だ

猫の目岩の奥で

ミーーン
ミンミン
ミーーッ

ミンミン
ミーーッ

やっぱり夏は
ひやむぎがうまいなあ
うん

ずうずず
ずずっ

はーうまかった

あれもう食べてしまったのか?
うん……
ようおやじお水ちょうだい
はいよっ

ウフフ
フッ
コロコロ

ヒデヨシ
その水晶玉
どうした
んだい？

きのう
蛇腹沼の岸で
拾ったん
だよ

ふーん
玉の中に　猫の目が
入ってるね・・
まるで「猫の目岩」
みたいだなあ

「猫の目岩」？
「猫の目岩」って
なんだ？

あそこに
ある岩
あれが
「猫の目岩」
だよ

あの岩に猫の目みたいな所があるだろう

昔あの目の部分をパックリと開いてその中に入った猫がいたらしいよ

ふふっ…あの岩がパックリと開くだと？
そんなことうそにきまってるぜ

お客さんその話は本当だよ
岩の中に入った猫というのはもう死んじまったけど実はわしのおやじなんだ

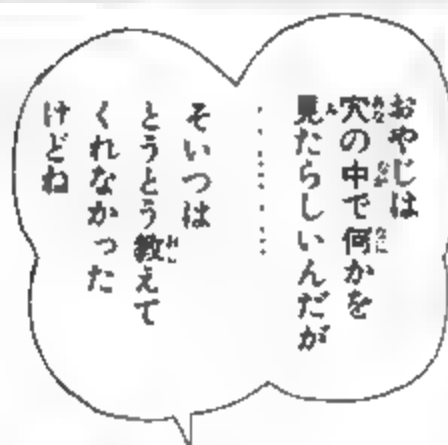
ええっ!!

でもどうやってあの岩をあけたのかね？

オレが聞いた話ではよ おやじが若かった頃
蛇腹沼の水の中から

猫の目の入っている水晶玉を拾ったんだそうだ

え？

そしてある日「猫の目岩」に行って 岩の目の部分にその玉をくっつけてみたら
岩が開いたのだそうだよ

おやじは穴の中で何かを見たらしいんだが…………
そいつはとうとう教えてくれなかったけどね

いったい何を見たんだろう
フッフッフ ようし行ってみようぜ

あれ パンツが昼寝をしているぜ

なあチンプラ石ぶつけて起こしてやろうぜ
やめなよ せっかく眠っているんだから

それより早く「猫の目岩」に行ってみようぜ
そうだな

フッフッフッ
あの中にいったい何があるのかな？

さあテンプラやるで
おう
ぐっ
ゴゴゴゴ
ああっ
オッ
ゴゴゴ
開いた
ら

何か聞こえてくるぜ
うん
何の音だろう
あそこから聞こえてくるぜ
う
ザザザ…

ここはどこなんだろう

この道を歩いて行ったらわかるかもしれないぞ
行ってみようぜ

ずいぶんきたなあ
あ
ザ
どうしたん?
むこうに何か見えて来たぞ
ザザーッ
ザザーッ
ミーン
ミンミン
ミィーィ
あれ！
あそこに店があるぜ

ふーっ よく眠ったなあ

こんにちは

ああ いらっしゃい

さっきのそば屋のおやじだ
おやじさん どうしてこんな所に!?

あれ? お客さん どこかで見たような

クフッ あんた 何とぼけてんのよ さっき あったじゃないか!!

さっきあった？
わしは今までずーっと眠っていたんだよ

またあとぼけて
おっそうだ思い出したぞっ

どっかで見た顔だと思ったら

わしが見ていた夢の中でひやむぎを食ってた方だね

夢の中!?

もしかしたらお客さん「猫の目岩」のむこうからきたのでは？
そうです

そうか……
君たちがあった
そば屋のおやじ
というのはね
……
パタパタ
目覚めの国の
私なんだよ

君たちが
夜夢に見る
世界……
眠りの国さ

えっ
目覚めの国!?
おやじさん、
ここはどこ
なんですか?

すべての
生き物はね
生まれる時
二つにわかれて
この国と
君たちの国に
やってくるんだよ

だから
眠りの国の
どこかで
もうひとりの
君たちが
生きているん
だよ

眠りの国の
ヒデヨシか
……フフッ
もうひとり
ぼくがいる
なんて!!

君が眠っている時
この国の君は起きているんだ

君たちが見ている夢というのはね
ザザ

この国の君が起きて見ているできごとなんだ

すると眠りの国のぼくの見る夢は…？

君が目覚めている時にやっていることを見ているわけさ
ううっ

おいテンデヲあってみようぜもうひとりのオレたちに

おやじさん
もうひとりのぼくらに
なんとかして
あえないでしょうか

君たちが
ここにきてることを
知らせることは
できますよ

ガサガサ

この
風鈴に自分の
名前を書いて下さい

こうやって
つるして
おくとね

この風鈴の音が
今眠っている
もうひとりの
君たちの耳の中に
こだまして
ここに君たちが
きていることを
知らせます

なあヒデヨシ もうひとりの ぼくたち ここにくる かなあ？
絶対 くると 思うぜ

あった時 おまえ 何て 呼ぶ？

やあ ヒデヨシ君

フフッ 何か 変ねえ

お客さん この裏に温泉が わいていますから 湯にでもつかり ながら まってみては いかがですか
これは かたじけ ない
どうも

おやじ ひやむぎ くれ
いらっ しゃい
あっ

パンツー
眠りの国のパンツだよ

あれあんたたち夢の中で見たことがあるなあ

ハッハハハそうか……

さっきくる時にパンツのやつ眠っていたから 今猫が起きているわけか……
そういうことですね

でも ねぼくはこの国でもうひとりのあなたたちにまだあったことはないんですよ
フッフッフッもうすぐやってくるんだよ

えっ
ここに
くるの!!
そーか
そいつは
楽しみだなあ

しかし
こうして見ると
君はパンツと
ぜんぜん
変わらないね

いやこの国の
連中は
君たちとはかなり
ちがうんだよ……
たとえば
だね……

こんな風に……
グググッ
う
ら

体がどんどん
大きくなったり
小さくなったり
できる
んだよ
らら
らら

ザザー

おそい
ですねえ

チリリリ

まっても
ムダかなあ
……

どうしたんだろうヒデヨシのやつめ

ミーン
ミンミン
ミーッ

いくらまっても
もうひとりの
テンプラは
きません
でした

……お客さん
どうやら
ないよう
だねえ…
そう
ですね

ヒデヨシ
そろそろ
帰ろう
ぜ
そう
するか

これ パンツに わたして くれ

これは何？
オレがいつも吸ってる眠りの国のタバコだよ

それじゃ目覚めの国のパンツによろしくな
うん いっとくよ

それじゃあ
さようなら
気をつけてな

あーあっとうとうあえなかったな
でもいいじゃないの

もうひとりのパンツにあえたんだから
フフッそうだね
さあーてひさしぶりに歌ってみるか……
ざろんがん♪ぬでんろお♪
結局ふたりは
気がつかなかったのです
もうひとりのヒデヨシとテンプラが……

水平線の彼方から見ていることに。
♪りおつうま♪
どお♪

おわり

ブドウの森

ぷっ

見つけたぜっ

この足跡さえ追って行けば…

にゅっ
ふっふっ
ふう

今夜あたり現われそうだな
うん
そんな感じだね

大ダコですよ

くねくね

大ダコッ

こっこんな山の中に？

そうです

毎年今頃になると森の中に現われて

通行人を襲うのです

そのたびに大ダコ狩りを行うのですが‥
どうしてもつかまらないのです

フーム

今年はすでに19件も襲われているんですよ
ちゅっ

19件も!!
ずいぶんぶっそうなんですねえ

まったく秋になるとこの辺の連中は心が落ちつかないんですよ

いや‥ホラひとりだけハリキリ出すのがいるじゃないの

あいつかあ‥

らららん♪らん

ららん♪らん♪
大ダコめっ♪
今夜こそオレがとっつかまえて食ってやるぜえ
う
ぐぐぐるじゅ
タコのことを考えたら腹が減ってきた
ブドウでも食って行くか

みんなのためにケーキを焼いていたら
集合時間に間にあわなくなっちゃった

もうすぐ9時になるわ
いそがなくっちゃ

スーッ

キャーッ

ぼーン
ぼーン

10時か…ヒデヨシとフーコちゃんおそいなあ…

ムッ
だれかがくるぞ

オーッ
またせたなあ

さあ大ダコの野郎をぶちのめしに行こうぜっ

フーコちゃんがまだこないんだよ
フーコか…

あいつは時間にだらしのない奴だからなあ

さんざんおくれてきてよくそんなことが言えるもんだ

いつまでまっていてもしょうがないぜ
そうだなそろそろ出発するか

オレよきょうタコの足跡を見つけたぜ
えっ?ホント

それでどうした?
すーっと追って行ったら

足跡がオレの家のまわりをまわってるんだ

やっぱりそうかおまえ気をつけた方がいいぜ
どうしてだよ

大ダコの奴
おまえを
ねらっている
んだよ
フームッ

オレをねらうとは
ふとどきな奴だ
生きたままで
食ってやるぞお

あ
フーコ
ちゃんだ
ええっ
?

こら
フーコ
しっかり
しろ
パパン

あ・・・・

ハッ

フーコちゃん
だいじょう
ぶか
うん
大ダコに
首をしめられて
気を失った
だけよ・・・
このカゴ
甘いにおいが
するな・・・

あっその中に
ケーキが
入ってるで
しょう
ええ
？

何にも入ってないよ

タコの奴がケーキを食ったんだ……
くそっ

タコの野郎

この足跡を追って行くんだ

うう
あ

ここで消えている!!
どうしてなんだろう?

フーム……わからん
もう朝か……
ようしこうなったらつかまえるまで毎晩きようぜ
おう!!
それから3日目の夜
ウー
今夜も現われないのかなあ
ソワソワ
タクマさっきから何を塗ってるんだ?
麻酔薬さ
タコの奴これがささったら一発でのびるぜ

うーっオレも ブドウ食べてこよう
おいヒデヨシ ブドウなら ここにあるぞ
オレは すっぱい ブドウが 好きなんだ
すっぱい奴なら オレも 食べてみたいな
これだよ タクマ
あっ
銀色の ブドウだ

おまえ
これは
毒ブドウ
だぞっ
フッフッフッ
この
すっぱさが
たまんないのよお
ブヂュッ
バカ このブドウを
食ったら
死ぬぞっ
何度も
食ってるが
ちっとも
平気な
のよお
あ――
びっくり
した
どう
した？
ヒデヨシの奴
毒ブドウを
食ってるぜ
あいつ
毒ブドウ
くらいじゃ
死なないよ
ふつう
じゃ
ないから
なあ

もうすぐ夜が明けるぜ
今夜もだめだったなあ

ビダッ

ああっ
出たっ
テンプラっ

そっ

うあ

あっ
ぶ
ぐぶぐぶ
ドシュッ
ぐ
ドダッ
いて
ふう

麻酔薬のききめはすごいなあ
一本でのびてしまったね
ヒデヨシを呼びに行こうぜ
あいつこのタコ見たらうれし泣きするなあ
ああっタコが
縮んで行くぞ
あーっ

ぐー ぐー
と……ヒデヨシだっ

でも どうしてヒデヨシが大ダコなんかに

タクマ ヒデヨシの食った毒ブドウの色はもしかしたら銀色では?
そう 銀色だったよ

そうか………なぜ ヒデヨシが大ダ■になったのかわかったぞ
えっ ホントっ

ずーっと昔 銀色のブドウを食っても助かった猫がいたそうだ
ただ 体がしばらくの間変化して……

大きなマグロになっていたんだ
マグロに!!

その猫は金持ちでマグロばかり食っていたんだ

そーか こいつ貧乏でタコばっかり食っているから…
ぐー ぐー

ウッ
ガバッ

うーっ
ブドウを食うと
気持ちが良くなって
猫になるまでは
おぼえているが
それから先が
わからない
……

もう
朝か…
くそっ
またしても
大ダコは
現われな
かったな

大ダコは
現われたぜ
何いっ!!
それで……
逃がしてし
まったのか

あのな
おまえがさっき
毒ブドウを
食っただろう

タクマ
いっても
ムダだぜ
いや
はっきり
わからせる
べきだよ

一時間後
フーム
あのブドウを
食うたびに
オレの体が
タコになって
いたのか…

しかし
さすがのあいつも
ショックだったろうな
そりゃあ
そうさ
毎年森をさわがせた大ダコが
自分だったのだからなあ
うっうっうっうっ
あの
毒ブドウの
木は切って
しまおうぜ

オレが
タコだったのか!?
そうだ
うう
うう
オレが
?

そしてその夜

ぺっ

なんだ
かんだと
いったって

フッフッフッ
やめたい奴は
やめれば
いいさ

大ダコめ

オレはあきらめないぜえっ

雪待ち草の酒
Pom

あーっ そろそろ アレの季節 だなあ
なんだい アレって

声くらべ 腕くらべ
月見酒 のど自慢 大会だよ

そういえば 今年は まだやって なかったな
今度の 満月の夜に やろうか

いいねえ でも場所は どこにする?

オレ いい所を 見つけ たんだ ちょっと 行って みない?
うん

あとで
オクワ酒屋に
行ってみんなに
話そう
おう

オクワさん
最近
森の中でなにか
さがしてる
みたいだな
うん

でも聞いても
教えてくれ
ないだろう
うん
だから
よけい
気になるん
だよなあ
フフッ
スダコを
さがしてるのかな

はぁ

ふう
ついた
ぞ

ほら
ここからなら
月もよく
見えるぜ
あれ…
ここは
水晶の塔
じゃないか

なんだ
チンプラ
ここに来た
ことある
のかあ?
ああ

この塔は
今から数千年前
ナスナ時代に
建てられたもので
水晶の塔と
呼ばれてるんだ

フーン
そうか
ところでよ
これは
なんなんだ?

そのみがかれた
水晶はね…
なんかの儀式に
使ったらしいが
なんに使ったのか
今だにわか
らないんだよ

フッフッフッ…
オレがそのナゾを
解いてやるぜ
こんな
ところに
文字が
きざんで
あるぞ
ム!
ここには
水晶の使い方が
書いてあると
いわれているんだ
フーン
なんて
書いて
あるんだろうな
この文字を
今使ってる言葉に
訳すと……
「花は南の鎧けむり
スズキ群れなす石の上
円月の下　酒を飲む」
となるんだよ
いったい
どういう意味
なんだろう
さっぱり
わからん

いろいろな人たちがこの言葉を調べたが「花は南の銀けむり」これがどうしてもわからないんだ
すると

残りの言葉はわかったのかい？
うん
「ススキ群れなす石の上」
これは季節と場所を表わしているんだ「ススキ群れなす」とは 秋のこと

「石の上」とは この塔の上すなわちこの場所をさしているんだ
それじゃ「円月の下酒を飲む」というのは

「円月の下」とはまあるい月満月の夜のことさ
すると「ススキ群れなす石の上円月の下酒を飲む」とは
秋の満月の夜ここで酒を飲むということか・・・

うん でもその言葉どおりここで酒を飲んだがなんにも起こらなかったんだ

ふーむ

字の読める奴にかぎって 字にこだわるから

かんじんなことがなんにもわからないのさ

ものごとを深く考えてもムダなのよ大切なのは

野性のカンだぜえ

それじゃおまえこの水晶なんに使われていたと思うんだ

いーかオレの推理はこうだ

昔の連中は
ここで　月見酒を
飲んだ

そして
くもりの夜や
雨の夜でも
月見をしたい
人たちは

ここにすわって
この水晶を
お月様のつもりで
見ながら
酒を飲んだのさ

フッどうだ
これで水晶の
ナゾが解けたぜ

そんなことを
したやつは
おまえの先祖
だけだろう

「花は雨の鎧けむり」……………か
どういう意味なんだろう……

月見酒のど自慢大会の場所は水晶の塔に決定だな
おう

あっあそこにいるのは
オクワさんだ

なにかさがしているぜ

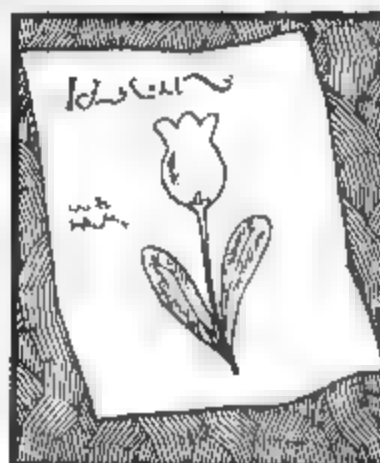
やあ
こんにちわオクワさん

なにをさがしてるんですか
まあね

よおオヤジかくさずに教えてよ
別にたいしたもんじゃないんだよ

これを見てごらん

実はいろんな果実酒のことを書いた古い本の中に雪待ち草の酒というのがあったんだ

雪待ち草……見たことないね
うん知らないな

そこには雪待ち草の白い花の絵といっしょにこう書いてあったんだ
「その花を見つけることはむずかしいが……あらゆる酒の中で一番うまい酒だ」

酒の中で一番うまい酒だとおっ!!

おやじその酒飲んだことあるのか?
いやないよ

雪待ち草の酒か・
フッフッフッいったいどんな味なんだろうな

あちこち
さがしてるが
かんじんの
雪待ち草が
見つからない
んだ

オレに
まかしとけ
オレに

おかえり
なさい
やあ
フーコ
ちゃん

あれっ
花を持って
来てくれ
たのか
ほおずき沼の
岸に咲いていた
のよ

おおっ

それね
見たことの
ない花だけど
白くてきれい
だからとっ
てきたの
雪待ち
草だ
ええ?

これだ!!
これで酒が作れるぞっ
つえっへっへっへえ

花は雨の銀けむり……フーッどうもわかんないなあ

おやじオレにもさわらせてくれ
いいよ

ぷっくりした花だな

うう粉が目に入った
銀色の花粉だ

まるでケムリみたいだ

!

おいテンプラ
どうした?

「花は雨の銀けむり」の銀けむりとは銀色の花粉のことじゃないのか
あっそうか

「花は南の銀けむり」の
花とは雪待ち草
のことなんだ!!
でも
「花は南」の
南とは
……?

雪待ち草の咲いていた
ほおずき沼は　たしか
水晶の塔の南の
方角にあるぜっ
ううっ
そうか

しかし
雪待ち草を
どうすれば
あの水晶の
ナゾが解ける
んだろう
ふうむ
「花は南の銀け
むりススキ群
れなす石の上
円月の下酒を
飲む」……か

雪待ち草
……
酒を飲む
か…

そうか
わかっ
たぞ

ふつうの酒を
飲んでも水晶の
ナゾはわから
なかった…
ということは

秋の満月の夜
水晶の塔で
飲む酒が…
雪待ち草の
酒なんだ

フッフッフッ
雪待ち草の酒か
うまそうだ
なあ……

いよいよ
明日は月見酒の
のど自慢大会
だ

ナンプラも あぶないと 思うか
うん 思うよ
その夜の 明け方近く
ガリッ
この世で一番 うまい酒か うっふっふ
全部オレが 飲んでやるぜぇ
んっんっん
フーーン ドロッとした 味だなあ
一番うまい 酒か……
そういえば そんな感じ だな
ペロ

おい
ヒデヨシ
なにやって
んだ!!
あれっ
まあ
おまえが酒を
かっぱらいに
来ると思って
みはっていた
んだよ
かっぱらいに
来るだと
おまえたちは
ぜんぜん
オレを信用して
いないんだな!!
フッ
でももう
酒は飲んで
しまったぜ
あたり
まえだよ
ええっ
全部飲んで
しまったのか?
ああ
もうカラッ
ポさ
うま
かったなあ
そして待ちに待った
月見酒のど自慢大会の夜です
赤い顔した
子らの
それは
沼の水
だぞ
ブッ

♪月まつりの夜にいかんばいいいっ♪
どもっ
ペコ
パチパチ
パチ
それではいよいよ雷待ち酒でカンパイといきましょうか
わーっ
とくっとくっ
フフッこれが一番うまい酒か
これを飲めば水晶のナゾがわかるんだな
では……鳥霧山からのぼって来た満月の
透きとおった光にかんぱい
かんぱあい
カチーン

う
うう
んっんっ

これはにがくて飲めたもんじゃないや
フーッ全部飲んだぜ

にがあいっ
ううっなんだこの味
ぺっぺっ

くーーっ

はーーっにがい
おいチンプラだいじょうぶかそんなの飲んで
くそっ
なにが酒の中で一番うまい酒だ

ぺっ
ただにがいだけじゃねえかっ

おっ
ああ
ん？

シュー

体が透きとおって行くぞ

ふっふっふ
透明ネコだぞおっ
透明な体と水晶のナゾ
これはいったいどう
なってんだろう!?

あっ
スー

光の粒が水晶の中に入って行くぞ

ああっ
この
水晶は

月に映す幻燈機だ

アタコオル物語２につづく

ますむらひろしの本

アタゴオルスケッチ
B5判イラスト集
定価1600円

アタゴオル旅行記
A5判愛蔵本
定価2300円

ヒデヨシ印の万華鏡
A5判愛蔵本
定価2000円

アタゴオルは猫の森
A5判愛蔵本
定価2500円

永遠なる瞳の群
新書判「サンコミックス」
定価380円

アタゴオル物語①〜⑥
新書判「サンコミックス」
定価各380円

朝日ソノラマ